

名古屋芸術大学

後援会報

第54号 2013年3月31日発行

CONTENTS

1	目次
2	卒業生に贈る言葉
3	名古屋芸術大学近況報告
12	在学生及び卒業生の展覧会・各種コンクール等受賞結果
13	私が就職内定をもらうまで
15	親の想い
16	子の想い
17	芸大祭報告
18	国際交流レポート 大学へのお問合せ先一覧
19	後援会研修旅行報告
20	後援会補助公開講座実施報告
24	音楽学部 第40回卒業演奏会報告 大学院音楽研究科 第15回修了演奏会報告 美術学部 第40回卒業制作展報告
25	大学院美術研究科 第17回修了制作展報告
26	大学院デザイン研究科 修了制作展報告 2012年度デザイン「Review」展のご案内
27	2012年度ブライトン大学賞
29	第23回生涯学習大学公開講座報告
30	学生部からのメッセージ 同窓会総会・卒業生懇親会報告
31	大学運営組織図
32	名古屋芸術大学後援会会則
33	後援会授業料貸付事業のご紹介 せせらぎ合唱団・絵画グループ壁の華 会員募集
34	木祖セミナーハウスのご紹介 編集後記

卒業生に贈る言葉



後援会長 萩 達也

卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。
 光陰は早いもので、入試合格に喜んだのがつい昨日のように思えてなりません。
 「さあ自由にお飛びなさい。」と籠から放たれた雛鳥が、あんなに欲しがっていた自由を与えられながらもいざとなるとやはり籠の中が懐かしまれてならない。これが今の皆さんの心境でしょうか。最初の一步は勇気がいりますが堂々と人生の大空に巣立ってください。
 今になって考えますと大学生活は、まるで知識のデパートを大急ぎで通り過ぎたようなもの。そのままで実生活に役立つものは、ほとんど身につけていません。教えて頂いたことを役立たせるようにするのは、大学を出てからの心掛け次第です。卒業は実生活への新入学で、勉強はこれから本気に始めなければならないのだと思わずにはいられません。どうぞ将来に対して準備してください。
 現社会は所属集団の規模に関係なく、世界中の人々と接するようになりました。好むと好まざるとに関わらず国際化の流れは止まりません。広い視野に立ち、自分を取り巻く環境にどのように対応し、立ち振る舞うかを考える時が来たのではないのでしょうか。
 進路で悩んでも立ち止まってはだめです。結果を気にしすぎ何もしない人生は悔いを残します。壁にぶつかっても軌道修正して前進してください。時は容赦なく過ぎ、時計の針は戻せません。皆さんが培った専門技術、知識はどこかで求められています。果敢に取り組んでください。
 ご父兄の皆様、教職員の皆様、後援会へのご支援ご協力ありがとうございました。ご子息ご令嬢の社会での活躍を心よりお祈り致します。



学長 竹本 義明

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。
 新たな出発点に立たれる皆さんが、それぞれの将来の目標に向けて活躍され、その動向が同窓会活動や様々な繋がりの中の情報として大学に伝わることを願っています。
 先日、日本中退予防研究所による大学生の動向について記述された文章が目にとまりました。「大学改革は中退率の防止から」というタイトルでしたが、4年制大学に100人が入学した場合、留年も中退もせずに4年間で卒業するのは、75人ということです。大学の中退率は年3%で、4年間で12%。残る88人のうち留年せずに卒業するのは75人、その中で、就職率が61%となっているので、46人が就職するということになります。そして、大学卒業生の離職率は3年の間に30%となっているので、3年以上仕事を継続するのは32人となります。
 この数字から言えることは、大学に入学した学生の約3割しか保護者や大学の教職員の期待に応えられていないということです。後援会活動の中で、ご意見をいただく保護者の思いとは大きな乖離があることをあらためて認識することになります。大学は出来るだけ多くの学生が充実した学生生活を送り、将来の進路に夢と自信を持って進むことが出来るようにする使命を持っています。
 創立42年となる本学の卒業生の社会での活躍は目覚しく、昨年から学内におけるNUAイベント・インフォメーションやホームページのアクティビティーレポート、トピックスで紹介される内容は、総合芸術系大学としての特徴を持ったものとなっています。
 卒業生の社会での活躍は、それぞれの専門性に新たな要素を加えて、複数の専門領域に及んでいます。過去のような準備された枠組みを超えて、創造力を発揮し、新しい可能性を自らが切り拓くものとなっています。これからは、学生と教職員が一体となり、社会が必要とする力量を身につけることがより一層大事になってくると思われます。今後も皆さんの期待に応えるため全学を挙げ、支援して参ります。

名古屋芸術大学近況報告

音楽学部

《演奏学科》

声楽コース

声楽コースでは、歌曲研究とオペラ研究を主な研究課題としています。その研究成果の発表の場として、本年度も「歌曲の夕べ」と四年生によるオペラ公演を行いました。「歌曲の夕べ」は、2月9日(土)に、電気文化会館ザ・コンサートホールに於いて行われました。当日は、2年生から4年生までの学生の中からオーディションで選ばれた学生達が、多数の観客の前で、日頃の練習の成果をしっかりと発揮し、多くの温かい拍手を頂きました。又、オペラ公演は、2月11日(木)に、名古屋市芸術創造センターホールに於いて第35回名古屋芸術大学オペラ公演としてエンゲルベルト・フンパーディンク作曲の「ヘンゼルとグレーテル」を上演いたしました。当日は、満席の観客のもと、学生達が4年間の締めくくりとして存分に今までの成果を発揮して伸び伸びと歌い演じていました。満席の観客からの温かい拍手につつまれた素晴らしい公演でした。

声楽コース 教授 土佐 誠

弦管打コース

第31回になるウィンドオーケストラの演奏会、9月27日竹内先生と、客員教授のヴァンデルロースト先生の指揮で開催されました。しっとりとしてシンフォニーオーケストラの様に感じられました。中部日本吹奏楽連盟の課題曲や楽譜のミュージックエイト社の参考音源録音や、オランダ・デ・ハスケ社のCD制作をしています。なお、オーケストラは今年第30回になりました。



大学院教授のファルヴァイ シヤンドール先生のソロで、リストの第2番の協奏曲と、学生オケにしては、難曲のラフマニノフの第2番の交響曲を古谷先生の指揮で開催されました。

室内楽の夕べは、学内のホールと、熱田文化での2つの演奏会で、合計18のアンサンブルプログラムでほとんどの学生全員なんらかの形で参加していることに感慨がありました。卒業生アンサンブル・NUAストリングスも第5回となり、プログラムの挑戦で弦楽八重奏とドルザークの弦楽セレナーデをしましたが、限られた日

程の中では大変な思いをいたしました。3月には第8回になるオーケストラワークショップが開かれます。これがかきかけで、管弦打楽器の演奏者や学生が多くなることを願っています。

弦管打コース 教授 森 典子

ピアノコース

後期授業開始早々、前号でお知らせしたウイーン国立音楽大学教授・本学客員教授マインハルト・プリンツ先生による公開講座「響の行方」が9月27日(木)多目的ホールで開催されました。11月5日(月)には、ショパンの母国ポーランドから世界的なピアニスト、エヴァ・ポプウォッカ先生による公開講座「ショパンの特徴、スタイル、演奏方法」が3号館ホールで開催され、フィールド、シューベルト、ショパンの素晴らしい演奏後、テーマについて講演が行われました。12月8日(土)には名古屋芸大と提携の名古屋音楽学校ホールで「ピアノと電子オルガンによるコラボレーション・ピアノコンチェルト」を行いました。名古屋芸大初めての試みでオーケストラを電子オルガンが受け持ちショパン第一番、ラフマニノフ第二番、ラヴェル ト長調を在學生と卒業生により満席のなか好演しました。12月13日(木)には、新年度より本学客員教授就任予定の近藤嘉弘先生によるリサイタルが3号館ホールで開かれ好演されました。

2013年1月17日(木)、ポーランド・ワルシャワ音楽院教授プロニスワヴァ・カヴァラ先生による公開講座「ショパン～ノクターン、ワルツ、即興曲～」が、先生の演奏を交え多目的ホールで開かれました。2月7日(木)には、今年度2回目となるプリンツ先生の公開講座「練習から演奏を考える」が多目的ホールで開かれ、初めにシューベルトのピアノソナタ 変ロ長調D.V.960(最後のソナタで35～6分の大曲)が演奏されてから、読譜・練習方法についての講演がなされました。

〈学生出演コンサート〉

2012年11 / 8 (木)「ピアノの夕べ」ピアノソロ・デュオ
電気文化会館

11 / 15 (木)「定期演奏会」しらかわ

2013年1 / 19 (土)「北名古屋市コンサート」ピアノ
コンチェルト

2 / 14 (木)「春のコンサート」電気文化会館

2 / 19 (火)「ブルー・ピアノ コンサート」
カワイ・ブルー

2 / 28 (土)・3 / 1 (日)「卒業演奏会」しらかわ
ピアノコース 教授 田中航造

電子オルガンコース

2012年度の電子オルガンコースは、多くの頼もしい新入生に恵まれ、各種催し物にも澆刺とコースの良さをアピール出来たと個人的には思っています。

今年も夏のワークショップ…本学キャンパスにて開催…には百余名の中部・東海・北陸の指導者、及び、その人数を遥かに凌ぐ門下生が集まり、ヤマハのトッププレーヤーで、テレビドラマ『濃姫』の音楽担当もした安藤禎央氏もゲストに迎えスペシャルライブもしていただき、大盛況といえる成功をおさめました。

年2回のオープンキャンパス…最近の学生は“オーキャン”と申してまして、面白く思えます…は、毎度、朝一のホールで催す“電子オルガン・プチ・コンサート”も学生らには良い演奏機会となりました。残念ながら秋の「オーキャン」は突発的な悪天候により中止の憂き目にあいましたが、春の方は頼もしい多くの新1年生の出演志願を得て活気をもって行えました。

コースの定演「アースエコー」におきましては、2012年度も熱田文化小劇場で、多くのお客様に来ていただきました。私自身も3年続けてアレンジを書き下ろし、オーディションを通れなかった学生にも電子オルガン4台のアンサンブルで演奏機会を与え、スポットを浴びてもらうという姿勢は、学生らの保護者を中心に好意的に受け取って頂いている観有りと言えます。

これらの成功？例は今後も鋭意続行するのはもとより、今後においては是非とも、提携した名古屋音楽学校に電子オルガンが食い込めないか…という可能性を追求したいところです。ピアノコースとのコラボレーションで協奏曲のコンサートを形に出来て、名古屋音楽学校の方々にも電子オルガンのポテンシャルをアピールする機会を得られたので、何とかその方向に前進したいです。

文末で恐縮ながら、毎年の後援会の皆様方による、ご理解に溢れる温かい援助に心より感謝致しております。

電子オルガンコース 准教授 鷹野雅史

《音楽文化創造学科》

ミュージカルコース

高山の市民参加ミュージカル、今年で5回目となる「飛騨・童話会議」のリハーサルが昨年の8月から始まっています。週末を中心に、教員、研究員、学生が高山を訪れ、約150名の市民と共に本番を目指してのリハーサルを行っています。市民の皆様の進歩はめざましく、踊っていても、学生たちと見分けの付かない方々が回を重ねるごとに増えています。また、高山在住の卒業生の方々からも大きな協力を頂いております。

今回の公演は2月10日です。シェイクスピアの「夏の夜の夢」に題材を得た「ロビン・グッドフェローの大冒険」というミュージカルを上演させていただきます。

また、ミュージカル・コースでは「父や母、祖父や祖母の青春時代を飾った歌」を歌うコンサートを企画しています。今年度は、高山市、北名古屋市、オアシス21などで公演をさせていただきました。幸い、両親の世代の歌を両親と一緒に歌うこの企画は好評を頂いており、今後も、常滑市、高山市、北名古屋市での再演が決まっております。

この3月には、名古屋市芸術創造センターで、オリジナル・ミュージカル「Fairly Tales」を上演致します。童話の主人公たちが次から次へと登場して来る、一寸怖い、ミュージカル・コメディです。

必死に夢を追いかける若者たちに囲まれての1年、今年も最高の1年でした。

ミュージカルコース 教授 森泉博行

ジャズ&ポップスコース

まず始めに、この場をお借り致しまして、自己紹介を致したく存じます。

ジャズ・ポップスコースの教授を務めさせて頂いております、ダニー・シュエッケンディックと申します。宜しくお願い致します。アメリカ合衆国ジョージア州、アトランタ出身で、1988年より、名古屋に在住し、ジャズ・ピアノの演奏及び指導活動に携わっております。2001年度より、名古屋芸術大学音楽学部、音楽文化創造学科にてジャズ・ピアノの非常勤講師を務め、2012年度より、本コースの教授に就任致しました。

教授を拝任して初めての年となった今年度は、私にとって、職務に関する新たな事を数多く学んだ年でありましたが、本学教職員のご助力を得て、今年度も、本コースの学生にとって、充実した素晴らしい一年とすることができたと自負しております。

学生の演奏能力向上に重点を置く本コースでは、今年度、彼らの当分野における演奏能力の向上に資することを目的と致しまして、学生たちに数多くの演奏機会を提供して参りました。

5月から休業期間を除き毎月開催致しましたロビーコンサートにおいては、サウンドメディアコースの協力・支援により、本格的な音響システムの運用を伴う演奏会形式での演奏機会を学生たちに提供致しました。

6月のオープンキャンパスにおいては、ミュージカルコースの学生と共同し、本コースの学生たちも演奏行事に参加致しました。さらに、7月及び11月に催行致しました、日本屈指のジャズ歌手である本学特別客員教授のケイコ・リー氏を迎えて公開講座では、本コース学生への指導・講習並びに同氏によるミニ・コンサートを行い、学生は勿論のこと、学外からの聴講者の方々にも素晴らしいひと時をお過ごし頂きました。

また、9月に行われた八ヶ岳でのフレッシュマンセミナーにおいては、新入生の学生間及び教員との交流を深め、学生たちによるジャズ合唱の演奏も行いました。10月の芸大祭では、3日間に渡り、ジャズ・ポップスコースの学生たちによる演奏会場が設けられ、ステージ上では、他コースを含む多くの学生による演奏が行われました。今後の芸大祭におきましても、このような演奏機会を設けられるよう希望しております。

その他、年間を通じて、ジャンパ・スウィング・オーケストラも、フェスティバルやコンクール等での数多くの演奏機会を得て、所属する学生たちは多忙な日々を過ごしております。今年度の最後には、卒業演奏会も予定されております。卒業する4年生たちが、在学中に習得した演奏能力を遺憾なく披露し、また、家族・友人に温かく送り出されるような演奏会となればと考えております。

1～4年生までの全ての学生たちが、今年度を通じて、多くの機会を得ることにより、「演奏家」としての重要な技術・知識の習得に取り組んで参りました。皆様の

ご理解とご協力に深く感謝致しますと同時に、今後も、本コースの学生のより高い演奏能力の習得並びにより深い知識の吸収に資するための環境を、向上させて参りたいと考えております。

ジャズ・ポップスコース教授 Donny Schwekendiek

音楽ビジネス・ステージマネジメントコース

「無人島に飾られた『モナリザ』の絵」という表現があります。どんなに優れた芸術でも、それを観賞する人がいなければ価値が生まれないという意味の警句です。芸術に携わる者として、人間が作り出した至高の芸術作品を少しでも多くの人々の手に届けて喜んで貰いたいと切に願っています。そのためには芸術家自身がそれなりの意識を持つことはもちろん、この社会において芸術を効率的に成り立たせるためのシステムを作らなくてはなりません。その基礎にあるのが「アートマネジメント」という学問だと言えるでしょう。

本学の「音楽ビジネス・ステージマネジメントコース」では、この「アートマネジメント」の理論に基づき、音楽をビジネスとして成り立たせるための様々な知識と技術を学んでいます。第1学年では、大学の行事のお世話をしながらマネジメントの基礎を学びます。

第2学年では、対外的な行事に参加して外の空気を吸って貰います。第3学年では、最も大きな大学の行事「ルネッサンス」において、企画と運営を担当し共同作業としてのマネジメントを学びます。さらに、第4学年では、自らが企画立案した演奏会を自らの手によって自主運営し、実際に収益を上げるという目標を達成して貰います。

こうやって学年を経るたびに大きく成長し、卒業するときには「終わり」ではなく「出発だ」とはつきり自覚してもらえるようなコース運営を、私たち教員も目指してきました。そしてこの意図をもっと明確に教育に反映させるために、2013年度からはコース名を「アートマネジメントコース」へと改称し、広く社会的な使命を担っていることを内外に発信していきたいと思っています。

音楽ビジネス・ステージマネジメントコース
教授 山田 純

音楽教育コース

本コースでは、今年度から専門科目「音楽教育特論」において新しい試みを始めました。さまざまな楽器（大正琴、オカリナ、ハンドベル、吹奏楽器など）に直接触れ、演奏しながら各楽器の指導法を学び、指導者としてのテクニックを身につけることを目標とする授業です。それぞれを専門とする講師の方々をお招きして行なう講義はとても興味深く、学生たちは楽しく多くのことを学ぶことができましたようです。

また、「音教ゼミ」では、戦後発行された「中学校の音楽教科書」に基づき、北海道から沖縄に至る47都道府県に関わりの深い「日本の歌」について調査しました。日本民謡や郷土色豊かな歌の数々に、「歌」の魅力を再認識することができたように思います。

一方、8月初めには「教科書図書館」（愛知県扶桑町）を訪れ、寺子屋時代の教科書、太平洋戦争後に用いられていた「墨塗り教科書」、男子生徒専用教科書や女子生徒

専用教科書など、さまざまな教科書を実際に手にとり、その内容について学びました。2月初めには、ゼミ研修で福山と鞆の浦を訪れました。福山市は箏の産地として名高く、全生産高の約7割が製造されていますが、箏の製造工場では箏がどのようにして作られるのかを見学し、また、箏曲家の宮城道雄ゆかりの地である鞆の浦では、宮城氏の愛用した貴重な品々に触れ、さらに彼の代表作《春の海》の作曲背景について学びました。

「指導法を学ぶ」、「ひとつのテーマを深く調べる」、「音楽の背景に触れる」など、来年度も学生たちがさまざまな角度から多くの知識を身につけられるような教育環境を作ってゆきたいと思います。

音楽教育コース 教授 金子敦子

音楽療法コース

音楽療法コース後期分のご報告をいたします。

前期分でご紹介しましたように9月には1年生を中心にフレッシュマン・サマーセミナーを行いました。後期に入り1年生も2、3年生とともに音楽療法実習で使用する音楽作り、合奏の練習等、またミュージックボランティア活動にも積極的に参加する姿が見受けられ、学生同士のコミュニケーションも順調に動いていることが感じられます。4年生は日本音楽療法学会認定音楽療法士試験前期を受験し、非常に良い成績を収めております。

3月26日には名古屋音楽学校ホールにおきまして後援会のご後援をいただき、「音楽療法への扉」を開催いたしました。内容はチラシの通りでございますが、学生たちが日頃、音楽療法実習で使用している楽器での演奏や授業で作曲した音楽の披露も行い、充実した内容となりました。

音楽療法コース 教授 久保田進子

名古屋芸術大学音楽療法コース
音楽療法への扉
a door to the music therapy
レクチャーとミニコンサート
2013 3/26 (火)
open 15:00 start 15:30
名古屋音楽学校ホール 入場無料

第一部：レクチャー「音楽の効用」
講師：久保田進子（名古屋芸術大学音楽学部教授）

第二部：お話と音楽療法コースの学生によるミニコンサート
お話：伊藤孝子（名古屋芸術大学音楽学部専任講師）
演奏：名古屋芸術大学音楽療法コース学生
ピアノ、ギター、ピアノ力、三味線
トーンチャイム
ほか

〒460-0004
名古屋市中区新栄中2-15-15カオスビル5F
TEL 052-931-3456
FAX 052-931-3330
【交通アクセス】
地下鉄東山線「新栄」駅から徒歩約5分

【主催】名古屋芸術大学音楽学部 【共催】名古屋芸術大学後援会 【後援】名古屋芸術大学音楽学部同窓会
【お問い合わせ】名古屋芸術大学音楽学部 演奏課 TEL 0529-24-5141

サウンドメディアコース

サウンドメディアコースでは、9月20日より1泊で1年生のフレッシュマンキャンプを行いました。ここでは4年間の具体的な学習内容の確認をはじめ、楽曲創作、音響、録音の各分野に別れ、事前に課していた課題を中心に担当教員と密接なディスカッションを行うことで、個々の能力に応じた教育プログラムを確認することができました。

また、例年実施されている本コース、音楽ビジネス・ステージマネジメントコース、音楽療法コースの3コースによる共同企画「カレイド・スコープ」が、2月11日に愛知県立文化センター小ホールで行われました。サウンドメディアコースでは、楽曲制作、音響、録音を担当しましたが、普段の学習結果の集大成の場であると共に、最先端のテクノロジーを駆使した実験的な音楽空間作りを目指して、コースが総力を上げて取り組みました。

本年のカレイド・スコープでは、メキシコ政府からの助成により来日した著名な映像作家、フェルナンド・ガルシア氏の特別講座や、映像提供もあり、充実した内容で終えることができました。

本コースでは、特に実習に力をいれた授業展開をしているため、課題数が多く、学生は大変忙しい毎日を送っています。本来の大学生の姿は、空き時間は、図書館での学習か練習にすべて時間をさき、専門性の向上に真摯に取り組んでいます。

したがって、各学生が能力を向上させるために、前述しましたように多くの課題を与えることで、充実した学生生活、学ぶ事の満足感を常にもってもらおうよう、教育内容を工夫しています。

最後に、2月に行われた「カレイド・スコープ」では、関係者他、多くの方にご来場をいただきありがとうございました。

サウンド・メディアコース 教授 田中範康

作曲・理論コース

作曲コースでは、作品を構築するのに必要不可欠なエクリチュールを徹底的に学ぶ事で、構成力のはっきりした作品作りが可能になるよう教育しています。

1、2年生次では様々な作曲理論を学び、3、4年生では室内楽作品を実際を書くことが、学生個人個人のスキルアップにつながっています。

例年行われている、3月の試演会では、各学生の作品を、学内外の演奏者に演奏をお願いしての公開試演会を開催しています。これは、各学生が学年ごとに決められた課題作品を、半年ないし1年かけて作曲し、それを実際に音にすることで、譜面上でのイメージと演奏を通じた実際の音との違いを経験することができます。このことも、学生個々のスキルを上げるために大変意義のあることと考えています。

本学主催の卒業演奏会でも、成績上位の学生の室内楽作品が演奏されました。さらにサウンデメディアコース・音楽ビジネスコース主催のイベント「カレイド・スコープ」では、電子音を使った最先端の技術を生かした作品を発表した学生もおりました。

このように、作曲コースで学ぶ学生は、作品が演奏されるチャンスに恵まれ、各学生が目標をもって充実した学生生活をおくっています。

作曲・理論コース 教授 田中範康

《演奏学科・音楽文化創造学科》

音楽総合コース

音楽総合コースでは、慣例になっている新入生対象の合宿を、4月1、2日の2日間、豊橋のリゾートホテルで行いました。総合コース新入生35名の他、全コースからの代表教員、教務課事務担当者が参加し、きめ細かな履修指導、教職などの資格関連の指導、各コースの説明を行いました。

1日目の出発時には、なんとなく緊張していた新入生も、バスの中での自己紹介やゲームなどを通じ、合宿地に到着する頃にはリラックスして、楽しく談笑をしている姿がみられました。また、この合宿には2、3年生の総合コースの学生が、約5名が同行しましたが、彼らは先輩の立場からの学生生活、履修方法などを、学生目線での確かなアドバイスをしてくれていました。

総合コースの学生は、学びたい分野に応じて個性的なカリキュラム自ら作り、将来専門家として自立するための勉強をしていくわけですが、この為に大学では個々の学生が充実した学生生活を送れるよう、学年単位での担任、専従の助手を配置するなど、特に細やかなケアを行って見守っています。そして昨年9月、3月の年2回、総合学生全員に面接を行っていますが、これによって、外見からではわからなかった学生個人の様々な悩み、また、大学への要望などを聞く事ができ、大学側も関係部署と連携して、サポート体制の充実、改善にむけてへの即座に対応をすることができるようになりました。

総合コースでは3年次で再度コースの見直しをしますが、1、2年時の履修状況、専門教員の意見などを参考にして、各学生の意向、個性を尊重した進路相談を行っています。

また、学生生活の面では、クラブ活動や芸大祭で中心的なメンバーとして活躍する学生も多く、様々なイベントで生き生きと活動している姿をよく見かけます。

さらに、各コース主催の演奏会、セミナー、合宿などにも積極的に参加して、自らの音楽的スキルアップに磨きをかけています。

このように本コース開設当初、様々な面で注目された総合コースですが、学生の学ぶ姿勢の多角化に応じて、カリキュラムの充実、また音楽的スキルが決して高くない学生のきめ細かなフォロー体制などを改善することで、さらなる充実をはかっており、学生の満足度も格段にあがって来ていると言えます。

音楽総合コース運営委員会 委員長 田中範康

美術学部

洋画コースOBの活躍・第三弾!

洋画コースでは数年前から紙媒体のニュース情報『洋画2コース & 大学院同時代表現研究<洋画>+現代アートnews』にて、卒業後の洋画コースOB達の国内外での動向を取材・調査をし、アーティストとしてパブリックな活躍に値するOB関連の展覧会情報、他にも作家以外の立場で社会やアート界にて活躍をしている卒業生にスポットを当てて写真入りで紹介しています。以下が最近のニュースです。
洋画2コース教授 大崎正裕

名古屋芸術大学 洋画2コース発

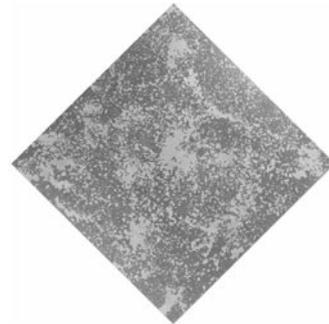
洋② & 同時代表現研究 + 現代アート news
Contemporary Art

1: 『美系優秀 2012』展に本学大学院同時代表現研究2年生の亀井 梓さんと 杉浦 光くん、美術学部洋画2コース4年生の波部 早紀子さんの

3名が選抜され、出展!



作者: 波部早紀子



作者: 杉浦光

美術系学生選抜展「ビケイクウシュウ 2012」

会 期: 2012年12月9日(日)~24日(月・祝) 休館日: 12月10日(月) 12月17日(月)
会 場: 文化フォーラム春日井・ギャラリー、交流アトリウム、他 開館時間: 10:00~17:00

2: 12月10日、『VOCA展 2013 - 新しい平面の作家たち -』(主催: 「VOCA展」実行委員会、 公益財団法人日本美術協会 上野の森美術館)の受賞者が発表され、 本学洋画コース卒業生・佐藤 翠氏(愛知県名古屋市在住)の作品 『Reflections of a closet』が大原美術館賞に決定しました!

『VOCA展 2013—新しい平面の作家たち—』

会 期: 2013年3月15日(金)~30日(土)
会 場: 上野の森美術館(東京都台東区上野公園1-2)
開館時間: 10:00~18:00 【休館】会期中無休

◎2012/11/10より公開の映画「悪の教典」にて絵画協力しております。



3: 大学院同時代表現研究<洋画>修了生・浅井 雅弘氏が

『アーツ・チャレンジ 2013』に選出!



会 期: 2013年1月22日(火)~2月3日(日)
会 場: 愛知芸術文化センター
(アーツスペースG,X及びパブリックスペース)

4: 『GEISAI#17』に美術学部洋画2コース4年生の**和田唯奈さん**が**鈴木心賞**を受賞! Hidari Zingaro(東京)にて『GEISAI#17 鈴木心賞受賞 和田唯奈個展』開催!

『GEISAI#17』

会期: 2012年9月2日(日)

会場: 都立産業貿易センター台東館

審査員: 鈴木心、富野由悠季、蛭川実花

『GEISAI#17 鈴木心賞受賞 和田唯奈個展』

会期: 2012年11月1日(木)~11月6日(火)

会場: Hidari Zingaro



5: 『WONDER SEEDS 2013』(東京)に

本学大学院同時代表現研究<洋画>修了生の**鈴木浩之氏**、
大学院同時代表現研究<洋画>2年生の**亀井梓さん**と**鷺野友香さん**、
美術学部洋画2コース4年生の**森田美里さん**の4名が選拔され、出品!

会期: 2013年02月02日(土)~2013年02月24日(日) 休館日: 2/4・12・18 入場料: 無料

主催: 公益財団法人東京都歴史文化財団、トーキョーワンダーサイト

会場: トーキョーワンダーサイト本郷



作者: 鷺野友香



作者: 森田美里



作者: 亀井梓



名古屋芸術大学
NAGOYA UNIVERSITY OF ART & DESIGN

< 作品写真などが毎号で重複するのは著作権が取扱いギャラリーや撮影写真家に移るためです >

レイアウト: Mizuki Hatakeyama 取材/編集: Masahiro Osaki

文化を作る“アーツ! ラジオ”

本学でもアーツ! ラジオという名称で美術学部洋画2コースが主担となり、5年前から“文化を作ろう”を合い言葉に、三日間限定のミニFM放送局を開局しています。「アーツ! …」の音源は日本発の「アアア…」とは異なり、伝えたいけど伝えられない歯がゆいまでのモドカしい気持ちを表しています。毎年毎回の開局にあたっては、学内から学生スタッフを募った際に「仮設」構想領域研究室という仮の会議企画室(ミーティングルーム)を設けてラジオ放送についてスタッフ同士が数ヶ月に渡って、何度も何度もミーティングを重ねます。番組のテーマや、誰を番組に出そうか、どんな形式で行おうかなど、様々な視点から検討して一回毎に番組を構想・構成してプログラムを作りますが、これまでも美術学部やデザイン学部の教職員や技術員、西キャンパスの助手や学生達有志の協力を得ながら仮の放送スタジオの設置作業から始めています。毎回、メインゲストを招聘するのですが、第一回は東西の文化芸術観を比較しようと、国際的演劇集団「ダムタイプ」関係者の小山田徹氏(現京都市立芸術大学准教授)と、東京に在るマジカルアートルームスタッフの伊藤遥さん(現islandJAPAN代表)や東京在住の複数の若手アーティストを迎えて、第一回目の電波放送を関東圏と関西圏の中間に位置する名古屋芸術大学(北名古屋

市)西キャンパスA&Dセンター中二階仮設スタジオにて放送を行いました。

翌年はあいちトリエンナーレ2010の年で、あいちトリエンナーレ事務局長の拜戸雅彦氏(愛知県美術館主任学芸員)を迎えてトリエンナーレ全般に渡るインタビュー番組、第3回目はハラプロジェクトの原智彦氏(演出家・俳優)を迎えてインタビュー放送やアーツ! ラジオのコラボ企画・即興パフォーマンスとインタビュー放送を併催したり、1980円メンバーによるオープニングライブアンコールやエレクトロニカY談を放送し、中部地方の演劇の実情に迫る番組を放送しました。

昨年は就活をテーマに、プロのDJであるcartoonとYu-iを迎えて、彼等が学生時代に何を考えていたのかなど、就活の話題を交えて学生がインタビューを行い、放送しました。他にも北名古屋市議会議員の桂川将典氏に北名古屋市の未来の展望について語ってもらいました。

一回一回の限りなく小さな放送局がこの大きく変容・変容する時代を語り継ぐことがアーツ! ラジオの精神であり、使命でもあります。ラジオが小さな歴史や文化を作れることを信じて、今後も活動を続けていくつもりです。

洋画2コース 教授 大崎正裕

デザイン学部

冬枯れのキャンパスでは、厚手の衣服を身につけて少し背を丸めて歩く学生の姿を、多く目にするようになりました。幾重にも巻いたマフラーとマスクの学生に、会釈をされて、誰だかすぐには分からずに、少し間が空いての挨拶になってしまう今日この頃です。

大学は、後期15週の授業が終了して、補講・集中講義・試験期間に入っていきます。学部1年生は、年間の基礎教育(ファンデーション)を終えて、レヴューに於いて展示発表(プレゼンテーション)を経験しました。教員スタッフとの面談(インタビュー)を踏まえて、次年度に籍を置くブロック・コースを選択して、デザインの専門教育へ入っていきます。2年生は、ブロック・コースの専門基礎教育を終えて、レヴューでの展示発表(プレゼンテーション)を踏まえ、次年度のより高度な専門教育に向けて、各々が準備します。3年生は、多種多様な課題に取り組んだ一年間を終えて、学部最終年を迎えます。各人が将来を思い描きながら、自らを他者に紹介する為のポートフォリオ制作を、多くの学生が進めています。4年生は、ようやく卒業制作が終盤となり、学外での展示発表に向けて準備中で、最終段階になっています。年明けの大学は、学生も教職員も年度の集約と次年度に向けての準備で忙しい状態です。年度末3月に向けて、入学試験実施のスケジュールが連続します。

ここでは、今年度(2012年)後半に、本学デザイン学部が学内外に向けて実施した、主な講座やイベント等をお知らせします。

・8月27日/ヴィジュアルデザインコース「津島市市民協働活動(エコバッグ制作)」の取組が報道機関に取り上げられました。



・8月30日/世界同時開催「第7回ジェームズデザインアワード」(日本)でインダストリアルデザインコース4年のFrederick Phuaさんが3位に入賞しました。

・9月25日/「シャチハタ×名古屋芸術大学」ヴィジュアルデザインコースとの産学連携ワークショップがスタートしました。



・9月28日～10月3日/テキスタイルデザイン非常勤客員教授、有田昌史氏による「有田文庫一ひらめきを紡ぎだす書物たち」展が開催されました。



・9月29日・30日/テキスタイルデザインコースの学生制作の帽子が、尾張名古屋職人展で、販売されました。



・9月30日/台風17号接近に伴い、開催予定のオープンキャンパスが中止になりました。

・10月6日～14日/地域と創造をテーマに常滑フィールド・トリップ2012が行われました。



・10月9日/「シャチハタ×名古屋芸術大学」ヴィジュアルデザインコース産学連携ワークショップが開かれました。



・10月14日/テキスタイルデザインコース研究室が、あいちトリエンナーレ2013公式グッズ・デザインコンペティションで、最優秀作品に選ばれました。



・10月16日～21日/第3回ポスターグランプリ展で、本学入賞者5名、入選者4名の展示がされました。

・10月18日/渋谷克彦氏(資生堂宣伝部)の特別講義が開催されました。



・10月21日/愛知県印刷協同組合主催の「第3回ポスターグランプリ」で、ヴィジュアルデザインコースの学生が、入賞(5名)入選(4名)しました。

・10月25日～27日／2012年度「芸大祭」がおこなわれました。



・10月30日／シャチハタ本社でヴィジュアルデザインコース学生達による産学連携共同プレゼンテーションが行われました。



・11月13日／西キャンパスで「一夜限りの小さな晩餐会」が開催されました。

・11月17日～25日／旧加藤邸アートプロジェクト2012<記憶の庭で遊ぶ>が開催されました。



・11月28日～12月9日／アトラボあいちで、「土と人のデザインプロジェクト」展が開催されました。



・12月4日／デザイン学部特別客員教授の服部滋樹氏とゲストにデザインプロデューサー紫牟田伸子氏による特別講演「農・地域・協働ーデザインの新しいフィールドから」が開催されました。

・12月／国際メダルプロジェクト“THE END”ポスター12月分が届きました。



・12月7日～12日／2012年後期留学生作品展が学内アート&デザインセンターで開催されました。



・12月24日／デザイン学部で2013年度入試合格者の“入学前スクーリング”が開催されました。(第3回)第4回は2013年1月12日、第5回は2月23日予定。



・12月26日／デザイン学部卒業生のマンガが「ザ花とゆめ」に掲載されました。

・2013年1月22日～2月3日／「アーツ・チャレンジ2013」に本学卒業生らが入選しました。展示会場は愛知芸術文化センター。

・1月12日・13日・19日・20日／デザイン学部レビュー展が本学で行われました。



【第40回】
名古屋芸術大学卒業制作展
2/19(火)～2/24(日)

愛知美術館ギャラリー【愛知芸術文化センター8階】①
アートスペースX【愛知芸術文化センター地下2階】①
10:00～18:00(最終日は17:00まで)
【美術学部】美術学科(彫刻・立体造形・ガラス・陶芸・アートクリエイター版画)
【デザイン学部】デザイン学科

名古屋市民ギャラリー矢田一②
9:30～19:00(最終日は17:00まで)
【美術学部】美術学科(彫刻・立体造形・ガラス・陶芸・アートクリエイター版画)
【デザイン学部】デザイン学科

名古屋芸術大学 西キャンパス【アート&デザインセンター】③
10:00～18:30
【デザイン学部】デザイン学科

映像作品上映会
アートスペースE-F【愛知芸術文化センター12階】①
10:00～20:00(土曜日は13:00～、最終日は16:30まで)

卒業制作展記念講演会 (入場無料・要整理券)
2/23(土)14:00～16:00
アートスペースA【愛知芸術文化センター12階】①
講演者 佐藤雅彦氏(東京藝術大学大学院映像研究科 教授)
「作り方を作る」

【第17回】
名古屋芸術大学大学院修了制作展
2/26(火)～3/3(日)

名古屋市民ギャラリー矢田一②
9:30～19:00(最終日は17:00まで)【美術研究科・デザイン研究科】

※尚、項目ごとのより詳しい内容につきましては、名古屋芸術大学ホームページ、デザイン学部、NUA ACTIVITYREPORT/トピックをご覧ください。
※追記/年度の最後を飾って、学部の卒業制作と大学院の修了制作の展示会が、各所で開催されます。入学時からの成長の結果であり、明日への通過点でもあります。多くの方々为本展に足を運ばれますことを願っております。
※追記/上記ご案内が、この原稿の印刷・発行予定からすると、展示会終了後になるかもしれません。ご容赦くださいますよう。機会がございましたらご覧頂いた展示会の感想や、お気づきの事柄等をお聞かせ下さい。次年度に向けての課題の一つになります。

デザイン学部長 落合紀文

人間発達学部

人間発達学部の12年度下半期の動向をお知らせいたします。

学部行事

(1)特別公開講座／2012年10月13日、慶応大学医学部小児科の渡辺久子先生をお招きし、「親と保育者のつながりで育む“子どもの心”～保幼小連携を見通して～」と題する特別公開講座を開きました。会場はウイルあいち（愛知県女性総合センター）でした。この特別公開講座は大学の地域社会への貢献のために、人間発達研究所が企画したものです。県内外の保育・幼児教育関係者、本学学生等約400名の参加を得ましたが、障害を持つ子どもの初期の（あるいは出生前からの）親子関係にまつわる、渡辺先生の情熱あふれるご講演に、涙を流して聴き入る学生もいるほどでした。

(2)本年度第2回文化創造セミナー／12月15日、40年近く親子読書や文庫活動に取り組み、絵本の普及活動を続けてこられた山崎翠先生を講師にお招きし、「子ども時代に大切なもの—絵本が育む力—」をテーマに、絵本の魅力と絵本の構成や読み方のポイントについて学びました。会場は1号館アセンブリーホールでした。実際の絵本を用いた先生の読み聞かせに、3年生を中心に約200名の受講学生はやさしく深く絵本の世界に引き込まれ、創造性を賦活されていくようでした。ご講演の終了後も幾人もの学生が先生を囲みました。



(3)就職活動報告会／今年度は11月15日と2013年1月17日の2回、就職活動種別報告会を行いました。公立小学校、公立幼稚園・保育園、私立幼稚園、私立保育園、福祉施設、公務員、企業等の部会に分かれて、首尾良く内定を手に入れた4年生から、その体験記を聴きました。2・3年生が対象でしたが、質問も活発になされ、話す側、聴く側双方の熱心さが印象に残りました。

(4)卒論発表会、修士論文発表会／今年度は2月4日に卒業論文の発表会を、2月10日に修士論文の発表会を行いました。卒業論文の発表会はゼミ毎に卒業予定者の全員が学会方式あるいは独自のプレゼンテーションの仕方で行いました。修士論文の発表会は修了予定の2名がそれぞれ1時間余の発表と討論を行いました。堀田音楽学部長にもご参加いただき、実のある討論ができました。

(5)春を呼ぶ芸術フェスティバル／2月16日には、来年度入学予定者にも参加を呼びかけて、標記のフェスティバルを3号館音楽講堂で開催しました。このフェスティバルは、学生たちに、自発性や自らの資質に対する自信を高めてもらうために実施してきたものですが、今年度で第3回になりました。学生たちは、日頃の授業やゼミ活動で学んだ合唱やピアノ演奏、読み聞かせ、サー

クル活動で培ったダンスや演奏の技能等々を、実に生き生きと披露しておりました。ご来場いただいた64名の入学予定者や40余名（幼児を含む）の一般の方々も含めて、200人を超える方々に、最後まで楽しんでいただいたようです。企画し、演じた3年生を中心とする学生も自らの資質や能力を再確認できたように思います。自信を持って今後の大学生活の充実に向けて欲しいと思います。

学生の就職状況

本年2月15日の時点での進路が内定した学生は70人（57.4%）です。その内訳は、公立小学校4名（正規採用2名、常勤講師2名）、保育園28名（公立7名、私立21名）、学童保育・福祉施設6名、幼稚園23名（公立1名、私立22名）、公務員2名、一般企業6名、大学院等進学1名、その他です。例年発表の遅い公立小学校講師や保育園等の採用を待っている者がいますので、最終的には大多数の者が内定を得るものと思われませんが、例年に比べて就職内定率がかなり低いのが気がかりです。

人間発達研究所の活動

(1)特別公開講座、文化創造セミナーの企画立案／既に述べました特別公開講座、文化創造セミナーの企画・立案を行いました。

(2)研究所年報の刊行／年度末には、人間発達研究所年報第2巻を発行します。今年度の研究所の地域貢献と研究活動等の報告が掲載される予定です。

(3)にこにこワークショップの開催／前期に引き続き10月4日～1月16日の水曜日、木曜日に都合20回の子育て・子育てワークショップを開催いたしました。延べ200組近い親子さんが参加されました。今年度は、地域のお年寄りとの交流会（1月10日）を持ったことと大学祭期間中に学生企画のワークショップを持ったことが特筆されることでした。また、法人のご尽力で11号館1階に新たなスペース（通称：子育て支援室）が整備されました。保育室・事務室・授乳室・乳幼児トイレ・砂場等々を有した立派な施設です。今後、地域の子育て・子育て支援や子どもを主体とするコミュニティ作りの中心となっていけたらと願っています。

教員の動向

現在の人間発達学部の教員数は22名（子ども発達学科所属17名、教養部会所属5名）です。この内、中田照子（児童福祉学）、金田利子（子ども学）両教授が今年度をもって定年退職されます。お二方とも大学院人間発達学研究所の立ち上げに際して本学に参画いただいたのですが、金田教授はOMEP（世界幼児教育機構）日本委員会会長として、中田教授は日本社会福祉学会中部部会理事としてご活躍されるとともに、ともすれば短期大学を引きずりがちであった本学部に学術的な新しい風を吹き込んでいただきました。お別れするのはまことに寂しいのですが、心胆からの御礼を申し上げてお送りしたいと思います。なお、野原由利子教授も今年度末でご定年を迎えられますが、学部・大学院の運営を考えて、特任教授として1年の間、お残りいただくことになりました。また、中田、金田両先生の後任には、30代の女性准教授（児童福祉学）と40代の男性准教授（子ども学）とが来年度4月に着任される予定です。若返りを図りつつ学部の発展を期したいと思っております。

人間発達学部長 佐藤勝利

皆さん受賞おめでとうございました!

2012年度の本学在学学生(学部学生及び大学院生)や卒業生の展覧会や各種コンクール等における受賞結果をお知らせいたします。本人または担当教員を通じて報告のあったものだけをまとめています。

音楽学部

コンクール名	順位、受賞など	楽器など	学年・卒業期	氏名
第9回クラリネットアンサンブルコンクール	第3位	クラリネット	研究生	小栗 静華
			研究生	松本 有可
			38期卒	中道 悠貴
			38期卒	伊藤美佳里
			39期卒	村田 俊之
第4回岐阜国際音楽祭コンクール	第1位グランプリ 岐阜県知事賞 文化人特別賞	ピアノ	3年生	碓 大和
	第1位 岐阜県知事賞	声楽	34期卒	稲葉 薫
第62回中日書道展	二科賞	—	3年生	中根 亜子
第61回読売教育賞	音楽教育部門 最優秀賞	音楽教育	卒業生	浦浜 麗名
第14回“万里の長城杯”国際音楽コンクール	ピアノ部門 第2位	ピアノ	4年生	秀平 雄二
第23回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール	審査員賞	フルート	4年生	長嶋 笑加
第6回横浜国際音楽コンクール	声楽部門 一般の部	声楽	38期卒	崔 利先
	管楽器部門 一般の部	クラリネット	研究生	松本 有可
	サクソフォン部門	サクソ	31期卒	所 克頼
	ピアノ部門 一般の部	ピアノ	3年生	碓 大和
	ピアノ部門 一般の部		36期卒	佐藤なつみ
	ピアノ部門 一般の部		4年生	増岡 真実
	ピアノ部門 一般の部		36期卒	荒谷あさみ
ピアノ協奏曲部門	第1位	大学院 2年生	山本多恵佳	
第4回東京国際声楽コンクール	入選	声楽	27期卒	五十君綾子
第13回大阪国際音楽コンクール	ピアノ連弾部門	ピアノ	13期卒	尾関 愛
	声楽部門 一般の部	声楽	13期卒	星野 博子
			36期卒	上田真理奈
			37期卒	近藤加奈子
管楽器部門 木管楽器部	3位 (1,2位は該当者なし)	フルート	39期卒	鈴木 良実
第18回みえ音楽コンクール フルート部門大学生以上一般の部	第1位 三重県知事賞	フルート	4年生	岡本 卓也
第22回日本クラシック音楽コンクール地区本選会 ピアノ部門	優秀賞	ピアノ	4年生	勝田 晴香
第14回日本演奏家コンクール ピアノ部門	第3位 奨励賞	ピアノ	4年生	鈴木 杏奈
			4年生	南谷 美咲
			1年生	岩田 晃
第22回日本クラシック音楽コンクール 全国大会	入選	ピアノ	4年生	今村 洋平
			4年生	鈴木 杏奈
			4年生	南谷 美咲
			36期卒	尾関あゆみ
第1回大阪音楽コンクール 管楽器部門	第5位	フルート	2年生	大林 清香
			4年生	山上ゆりな
			24期卒	林 寛子
クオリア音楽フェスティバル 第3回オーディション 本選	第1位 審査員特別賞	ピアノ	3年生	首藤 友里
			3年生	水越 晴菜
			36期卒	山田 愛子
第29回日本ピアノ教育連盟 オーディションE部門東海地区	第3位 特別賞	ピアノ	37期卒	水野 佐紀
			36期卒	荒谷あさみ
			37期卒	水野 佐紀
第4回東京ピアノコンクール	第1位	ピアノ	36期卒	荒谷あさみ
	第3位	ピアノ	3年生	碓 大和

美術学部

イベント名	順位、受賞など	コース名	学年・卒業期	氏名
トーキョーワンダーウォール2012全国公募展	入賞	洋画	36期卒	及川 裕子
第62回中日書道展	特選	洋画	修了生	宮崎 浩太
みずなみ陶土フェスタ2012	グランプリ	チーム名: funny orange	1年生	飯田 美穂
		彫塑	37期卒	浅井 直也
		陶芸	37期卒	小澤 直樹
		彫塑	38期卒	志満津華子
		彫塑	39期卒	水野 峻
GEISAI#17	鈴木心賞	洋画	4年生	加藤 真浩
VOCA展2013 —新しい平面の作家たち—	大原美術館賞 VOCA奨励賞	洋画	4年生	和田 唯奈
アート・チャレンジ2013	入賞	版画	卒業生	佐藤 翠
トーキョーワンダーシード2013	入賞	大学院美術研究科 同時代表現研究 <洋画>	修了生	浅井 雅弘
		大学院美術研究科 同時代表現研究 <洋画>	2年生	亀井 梓
		洋画2コース	2年生	鷲野 友香
		大学院美術研究科 同時代表現研究 <洋画>	4年生	森田 美里
第28回ニッサン 車誌と絵本のグランプリ 絵本の部	大賞	洋画	修了生	鈴木 浩之
			27期卒	長尾 琢磨

デザイン学部

イベント名	順位、受賞など	コース名	学年・卒業期	氏名
第37回愛知県優秀広告作品展	愛知広告協会賞、大賞	デザイン	19期卒	平井 秀和
年賀状デザインコンテスト2013 E-マイプリント	グランプリ	メディアコミュニケーション デザイン	4年生	西脇 優季
津島市市民協働活動 (エコバッグ制作)	1位	ヴィジュアル デザイン	3年生	西田 初里
	2位		3年生	石原 俊輔
	2位		3年生	宮崎花菜子
第7回ジェームズデザインアワード	3位	インダストリアルデザイン	4年生	Frederick Phua
あいちトリエンナーレ2013 公式グッズ デザイン コンペティション	最優秀賞	テキスタイル デザイン	4年生	永川 承美
			4年生	小島 千明
			4年生	三谷恵利香
			3年生	小島 由莉
			3年生	土井 綾乃
			3年生	古川 理恵
			2年生	鈴木 花奈
			2年生	寺島 佑紀
			2年生	田畑 知著
			院2年生	木村 容子
			4年生	加藤 奈央
			4年生	水谷 朋子
4年生	山田 菜月			
4年生	伊藤 友美			
3年生	太田あゆみ			
3年生	金森菜奈香			
3年生	高田 若葉			
3年生	山岸 結美			
3年生	内田 莉乃			
3年生	鈴木 明子			
3年生	野川恵里子			
3年生	日比 秋帆			
第20回アイリス生活用品 デザインコンクール	学生奨励賞	プロダクト& スペースブロック	2年生	川田 文香
ターナー色彩株式会社 TURNWE Award 2012	未来賞	メディアコミュニケーション デザイン	2年生	北川 美鈴
アート・チャレンジ2013	入賞	大学院デザイン研究科 クラフト研究	2年生	川平 遼佑
		大学院デザイン研究科 クラフト研究	37期卒	柏井裕香子
		メディアデザイン	35期卒	菅沼 朋香

私 が 就職内定 を もらう まで

出会いや繋がりを大切に



音楽学部 演奏学科
ピアノ選択コース
4年 前川実沙

私が就職について考えはじめたのは、大学に入学した時です。具体的な職業は決まっていませんでしたが、大学卒業後は音楽に関わる職業に就きたいと思っていたため、ピアノの講師のためのグレードの勉強をすることと、教員免許を取得することを決めました。

教員になりたいとはっきりと思ったのは、4年生の教育実習の時です。それまで教員は卒業後の選択肢のひとつでしたが、実習に行って考えが変わりました。実習中は授業の準備や提出物に追われて辛い時もありましたが、毎日学校に行くことが楽しく、3週間があつという間でした。授業実習を重ねるうちに、教材研究を念入りにしたり生徒への働きかけを工夫したりすることで、生徒の表情がどんどん良くなり、意欲をもって取り組むようになって感じ、授業をすることが楽しくなってきました。最終日に担当学級の生徒達が「絶対先生になってね」「頑張って」という声をかけてくれたことで、「採用試験に合格して教員になりたい!」という気持ちを持つことができました。

採用試験に向けては、3年生の夏休みと春休みに学生支援課の試験対策講座に参加しました。実習を終えてから1次試験までは約1ヶ月間の短い期間でしたが、対策講座で使っていたノートやテキスト、高校から使っている楽典や音楽史の教科書やノート、大学の民族音楽研究の講義のノートを見直して勉強を進めました。2次試験では集団討議や個人面接があり、対策講座で実際に討議

の練習をしたり、一緒に試験を受けた友達と「教育現場でこういうことが起きたらどうするか」ということを話したりしたことがとても良い練習になりました。試験本番では、実習中に実際の教育現場で感じたことを思い出し、具体的な考えや「私は教員としてこうありたい」という前向きな意志を伝えることができましたと思います。

この4年間の大学生活は、教員だけを目指してまっすぐ進んでこられたわけではありませんが、振り返ってみると、今まで経験した全てのことが今の自分のためになっていると感じています。大学主催の演奏会で他の学生の演奏を聴いて刺激を受けたり、出演して多くの人に聴いてもらえる喜びを感じたりすることで、より音楽を深く学びたいという気持ちを持つことができました。また、ソロだけでなく、ピアノデュオや室内楽、伴奏を経験することで、共に演奏することの楽しさを知ることができました。大学入学後に始めた楽器店の楽譜売場でのアルバイトでは、様々なマナーを一から教えていただき、社会で必要な多くのことを学ぶことができました。様々な楽譜に触れることで自分の専門以外の音楽の知識も少しずつ身につけることができ、接客をすることで初対面の方と自然に笑顔で、丁寧な言葉遣いで話すことができるようになりました。また、大学で出会った友達には、一生の宝物だと思っています。辛いときに励ましてくれたり、音楽について語り合えたりできる、とても大切な存在です。

4月から新しい生活が始まることに不安もありますが、どんな生徒達に出会えるのか今からワクワクしています。いつも私を支えてくれる家族や友達、お世話になった先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。これからも多くの人との出会いや繋がりを大切に、大学で感じたことや学んだことを生かし、常に学び続ける気持ちをもって、教員として頑張っていきたいです。

(愛知県公立中学校 音楽教諭 内定)

学生生活の成果を出す機会



人間発達学部 子ども発達学科
4年 二村恭平

私にとっての就職活動とは、「これまでの学生生活の成果を出す機会」でした。この名古屋芸術大学で学んだ4年間や高校・中学など、私が生きてきたなかでたくさんの人に支えられ、助けられてきました。特に高校の時、私は自分勝手な都合で留年しました。それを何も言わず支えてくれた母親やその後しっかりと卒業させてくれた高校の先生方には、今でも言葉では言い表せれないほど感謝しています。そんな自分を支えてくれた人達の為にも、良い結果を出すことが最大の恩返しになるのではないかと考え、就職活動に臨んでいました。

私が市役所を目指すようになったきっかけは、大学の講義の中で福祉や保育行政に興味を持ったところから始まりました。元々は子どもが好きで保育士を目指し名古屋芸術大学に入学しました。しかし、大学で学んでいく中で自分は子どもはもちろんのこと高齢者や障害者などに助けが必要な人達の支えになりたいことに気付くことが出来ました。そして、3年生で保育行政を専門とするゼミナールを選んだことで行政に対する知識が増し、教授の助言などにより市役所の職員を目指す気持ちが強くなりました。

就職活動とはいっても、私の場合、一般企業はほとんど考えていなかった為、受験勉強がメインでした。一般企業に対しては「経験しておきたいな」程度の気持ちで1度だけ合同説明会を見学しに行った程度でした。しかし、受験生活を独りで乗り越えるのは本当に大変なことでした。試験日が近づくにつれ、日に日に焦りが募り、

自分の将来への不安等で押しつぶされそうになる日もありました。そんな時には、先生方の励ましや、目標は違えど教員や保育士を目指して頑張っている友人と励まし合ったり、時には一緒に息抜きをしたりすることで乗り越える事が出来ました。そして、内定が決まった時には、泣いて喜んでくれた家族、一緒に喜んでくれた仲間、自分のことのように喜んでくれた教職員の方々を目の当た

りにし自分がどれだけ周りの人たちに支えられているかを再認識することが出来ました。

この就職活動を通し、私は自分に関わってくれた周りの人への感謝の気持ちを再び感じる事が出来ました。これから社会に出てもこの感謝の気持ちを忘れず社会に貢献して行きたいと思います。

(岩倉市役所 行政職 内定)

私が就職先に求めたもの



美術学部美術学科 洋画コース
4年 松本 梢

私は、2・3年生の時から学校の就職ガイダンスに出てお話を聞いていましたが、もうすぐ就職活動が始まるのだなという風にしか思っていませんでした。そして、3年生の12月から就職活動が始まり、地元での就職を希望していたため合同企業説明会などある度に地元へ帰り、企業の方とお話できる機会を持つにつれて自分がどんな企業に行きたいのか、よく考えるようになりました。企業によって理念や目指しているものは様々です。その会社で自分がどう成長できるのか、なりたい自分を明確にし、それに近づく会社であるかどうかが大切だと教えていただいた会社がありました。

その会社の理念はとても当たり前のことでした。あいさつ、笑顔、元気、整理整頓、素直、感謝、持続、勉強の8つです。この8つすべてを続けることは容易なことではありませんが、こんな当たり前のことを続けている会社の方々は内面からあふれ出る美しさに満ち溢れ、とても魅力的でした。私もこの会社で商いを通し、人に喜ば

れる人間になりたいと思うようになり、自分が会社に求めているものが分かってきたときでした。

いざ応募するととなると、まだ就職活動を始めたばかりの頃で何の準備もなく、自分の強みなど文章にすることはとても苦労しました。また、書類審査の一つに自分のアルバム作成がありました。レイアウト自由で写真も使って可という広い範囲の中でどんなものにするか悩みましたが、写真は使うことが簡単なので、すべて手書きで絵もふんだんに取り入れ仕上げました。その後も二次選考、三次選考と進みましたが、面接では自分のことがうまくアピール出来ず、せめて笑顔だけはと心掛けましたが、ことごとく準備が足りないことを痛感しました。

しかし、最終面接までしていただき、書類審査のアルバムがとてもよかったです。お店のポップ作成をしてほしいと言われ、その結果内定を頂くことが出来ました。面接ではうまく話せなかったですが、最初の絵で私の想いが伝わったのかなと思うととても嬉しく、このチャンスを最大限に生かさなければと思いました。

自分磨きが出来、なりたい自分に近づく環境がそこにはあります。どんなことを重視して会社を選ぶかは人それぞれだと思いますが、働く目的をしっかり持つことが大切だと分かった就職活動でした。

(株式会社アミング 内定)

デザイン業務の就職に向けて



デザイン学部デザイン学科
メディアデザインコース
4年 平山かおり

幼い頃から絵ばかり描いてきましたが、大学で様々な表現方法に触れ、様々な表現に長けるデザイナーに成長したいと思いました。なので、多様なクライアントを受け持つデザイン事務所に絞って就職活動を始めました。

ところがうまく行かず、秋からは視野を広げ、デザイン職であれば構わず応募しました。そんなときに大学求人で見つけたのが、いずれ私が内定をいただく事となる老舗御菓子屋の企画・デザイン職でした。

応募の際、第一志望は他のデザイン事務所でしたが、大学での経験をぐっと生かして課題のデザイン画を制作しました。すると、社長と面接をする事となりました。早速業務について質問すると「うちの企画・デザインを全て任せる。やりたい事を何でもどんどんやってくれ。」

と、その返答に驚き、また素敵だと思いました。

それから後日内定をいただき、心の底から感激したのですが、その晩私はずっと考えていました。「クライアントは自社のみだから、デザイン事務所のように様々な要望があってこそその表現力の成長が無いのではないのか。」と、デザイン事務所の事が頭から離れませんでした。その晩、初めて父に相談をしました。すると「仕事は仕事。自分のための業務ではない。」と助言してくれました。つまり、仕事はお客様や会社の為であり、自分の表現力を高める為ではないという事でした。そして、自分の為の勉強は、自分の時間内でやれる事だと。

もちろん業務をこなせば学ぶばかりですが、その学びは仕事上のものだということでした。父の助言が必ずしも正しいとは言えませんが、私が考えている自分の将来のことを全て見透かし、私に合った助言をしてくれたのでした。それはこの会社がぴったりだと思い、就職を決めました。

自分の時間はデザインの勉強に当てて、お客様と自社の為にやりたいことを何でも見つけ、様々な企画・デザインを施せるデザイナーになりたいと思います。

(株式会社松河屋 内定)

親の想い

出会いに感謝

美術学部 美術学科
4年 母 古澤悦子

私事ですが、人生50年以上生きて来て人との係わり色んな人と話す事、知り合う事が、いかに大切で素晴らしい事なのか最近特に、そう実感出来る様になって来たのは、半世紀生きてこれたからでしょうか。

娘が入学してすぐ、娘と一緒に大学に係わりたくて私も後援会に入れていただき、たくさんの方と出会い学び、色々な面で成長させていただき本当に感謝しています。

あと少しで娘と共に私も卒業です。

娘はこの大学で一番に得た宝物は、友達だと思います。自分の好きな絵を通して出来た感性の似た友達の中に居る娘は、こんなに楽しく笑い、明るくおもしろく話す娘なんだと、親の知らない面を、沢山引き出してきていました。そんな友達に会わせてくれた大学に感謝です。

確かに親としては、高額なお金を出して、大学に通わせるのですから、良い会社に就職してもらわないと、思う事でしょう、私もその一人です。ですが、娘達の様子を見てみると、それだけが大事な事ではないのかもと思えてきます。

娘にとってこの四年間で得た友情と言う宝物が、これから出会う色々な人達との係わり方に、きっとプラスになって行くのだと確信しています。娘と仲良くしてくれて本当にありがとう。娘をずっと支えてくれて本当にありがとう。娘の友達みんなに感謝です。

そして私にとっても、この四年間この大学で出会った、先生方後援会の方々、みなさんに感謝です。本当にありがとうございました。

明日から出会う新しい人達に胸踊らせて。

人生に感謝。



袴姿

美術学部 美術学科
4年 母 安藤孝子

娘が卒業する日を迎えることになりました。

その日、輝く娘の誇らしい顔を思うと嬉しさと感謝の気持ちで、いっぱいになります。輝いて誇らしい顔の中に4年間1460日分、絵筆を握って力をつけた、という自信、そして研鑽を積み幅広い人々の交際の中での切磋琢磨などが成長させてくれた自信の表れとなって輝いているのだと思います。

しかし、その間には、具体的表現の整理がつかず苦悩した日々があり、自己という存在の在り方に疑問をもち悩んでいた時があったことを私たち夫婦は知っています。

問題解決は4年生に入った秋、卒業制作にとりかかった頃、先生との交流が信頼になり目的意識が定まり安定していったようです。私は後援会の役員をさせていただいていたおかげもあり大学行事の事が分かりましたので娘の話す内容がよく理解できたことも安心材料の一つだったかもしれません。

この大学で良かったことは、娘と一緒に参加できた大学創立40周年記念事業として愛知芸術文化センターで行われた「現代を激写する」というテーマで写真家、篠山紀信氏のジャーナリズムの時代を変えてきた企画力、構築法の講話で発信力のヒントが得られたようで実に楽しかったです。また、今年は時の仕掛人とも言うべき佐藤雅彦さんが「作り方を作る」というタイトルで行われます。

一流のアーティストと時間を共にし、生の声が聞かれる機会のありがたさ、そして、このような方々をお招きしている事からもわかるように大学では産業社会に発展できるマーケティング教育の強化にも力を入れて行われているということが分かった、ということです。

芸術。体がそれを必要とするように心にも栄養が必要なことから約束してくれたように継続して行ってください。

人を思い学んだ専門知識と技術をいかし挑戦し結果を少しずつ出す方向に向かって人生を楽しんで行ってください。

まずは、卒業、おめでとう。

子の想い

自分を大きく広げていきたい

美術学部 美術学科
1年 服部美紀

私が名古屋芸術大学に入学し、およそ1年が経ちました。この一年間は、高校生の頃とは全く違う一年間で、色々と思うところがあるので、ざっと思い出してみたいと思います。

まず一番変化があったのはやはり実技の授業でした。私は洋画コース在籍で、高校でも絵を描いていましたが、大学に進学するまでは、絵は受験そのものでしたし、「表現」の意義そのものや、自分との関係を考える暇もありませんでした。しかし、大学ではむしろそのことが自分にとってのメインの作業になり、また一から「絵を描く」ということを始めました。

結果としては、この一年は完成した作品は少なく、常に探っている状態が続きました。しかし、その中でも、高校時代の一年間とは比べ物にならないくらいの発見もありましたし、確実に進歩できていると実感しています。

また、授業といえば、美術学部に入って良かった！と思うのは、当然ですが美術系の講義が多いことです。実技もやりがいがあるのですが、講義もとても楽しませていただきました。

特に美術史の授業が私は好きで、それに関連して色々な本を読むようになりました。大学の図書館も何度も利用させていただいて、いろいろな知識を得ることができました。

もちろん美術史だけではなく、むしろ「美術」とつかない講義でも、やはり美術学部ということで美術・芸術に関連した切り口で話は進み、製作の意欲につながる講義もたくさんありました。

このように、実技でも講義でも、美術に深く切り込み、学びの中心を美術に据えたカリキュラムで過ごし、とても楽しくもあり、思考も広く深く展開した一年でした。

今学んでいることは将来に直接結びつかないものかもしれない。それでも、この大学生という特別な期間を使って、自分を大きく広げていきたいと思います。

ら・ら・ら・48か月

デザイン学部 デザイン学科
4年 北川裕紀乃

入学してまずサークルに入ろうと思った。なんとなくギター部に入り、流れで女子バンドを組んだ。自分は身長が他の人より高いからという変な理由でベース担当に。ベースなど弾いたことはないが先輩に教えてもらいながらサークル内で発表などもした。近場で合宿もありそのころの写真を見ると何か笑える。サークルの先輩は楽しい人ばかりで楽しすぎて就活が少しのんびりめでは？と心配になった。

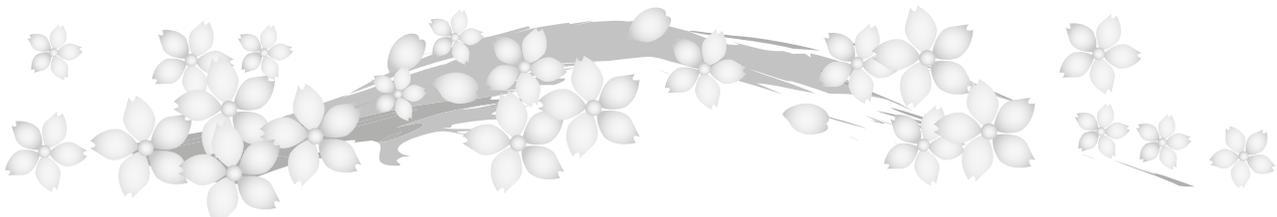
そのころ、ブライダルビデオ撮影のバイトを始めた。このバイトは拘束時間が長く失敗の許されない緊張する仕事でその割に安い賃金だった。人の一生の中で貴重なハレである時間を私のような素人学生が撮影しているのだから、世の中内情は結構いい加減な所もあるのかなと思ったりした。一年くらい続けてやめたが、今でもバイト先のみなどと食事をしたりする。

3年の時に学祭でパンとシチューの模擬店を出した。女子のみで店を作り仕込みもした。共同作業ではお互いの価値観がぶつかり合う。それをいやがらず、自分たちはどこに着地したいのか確認することが大切だと思った。

その年、音楽学部の人たちとのコラボで生演奏に映像をつけるという贅沢な企画に参加できた。音楽のコンセプトに沿った映像が果たしてできたのか。この発表で自分に不足している何かを感じた。今まで様々な課題をやってきたが、これは簡単には解決できそうもない何かだ。

そして集大成となる卒業制作。先生には本当にお世話になった。やや無謀な感もあったがあの時感じた何かを拭きたい気持ちで制作した。自分の想いは少しでも伝わるだろうか。就活も同時進行でなんやかやと慌ただしかった。大学生活の時間はほぼ自分のためのものであった。これからは未熟者だが社会に貢献できるようにになりたいと思う。

指導してくださった先生方、ならびに家族に心から感謝したい。



2012年度 東キャンパス芸大祭



今年度東キャンパス芸大祭は、10月25日（木）からの3日間開催されました。テーマは、学生の活気あふれる芸大祭にしたい、それをご来場いただいたお客様に感じ取ってほしいという想いや、今年度からの新しい試みが成功するという願いを込めて『fresh!!』に設定しました。

今年度は近隣住民への配慮から毎年中庭に設置していた大きなステージがなくなったことで、昨年度とは雰囲気が大きく異なるものとなりました。屋外メインステージがなくなったことで賑やかさを失わないよう、模擬店スペースにBGMを流したり、ステージイベント等の宣伝を積極的に行うなどの工夫をしました。

そして2号館1階ロビーに移動したメインステージでは照明機材を利用し、屋内だからこそ作り出せる独特の空間に来場された方々には多くのご好評をいただきました。また今年度は西キャンパス実行委員会のみなさんとの交流の場を持ち、情報交換を行うことで新しいアイデアを取り入れていきつかけとなりました。私たち実行委員会も例年より増して試行錯誤を繰り返しつつ取り組んできた芸大祭でしたが、多くの方々のご理解やご協力、またご好評をいただいたこと

で成功させることができました。今年度の経験をもとに、来年度からはさらに良い芸大祭を目指していきたいと思っております。

東キャンパス芸大祭
実行委員長 戸井晶子



2012年度 西キャンパス芸大祭



2012年度芸大祭は10月26日27日の2日間の開催でした。今回の芸大祭のテーマは、芸大祭に来ていただいた人が芸大祭をきっかけに日常に変化をもたらせたらと、思い「×ぼたん」というテーマをつけました。一見悪いイメージを抱くかもしれませんが、これをマークとして捉え見方を変えると、あなた×わたし あなた×芸大祭 などいろいろな可能性を表すマークになります。芸術大学だからこそ、視点を変え、考えを変え新しい何かに出会って欲しいと願いこめて開催しました。26日では、在校生を対象としてイベントを実行委員会自ら披露し盛り上がりを見せました。27日に開催した、外来イベントでは「the original tempo, wrecking crew orchestra, the キャンプ」の3組に来ていただき、普段見る事の出来ないプロのアーティストのパフォーマンスライブを開催し多くの方に絶賛をいただき楽しんでいただけました。開催された2日間は、在校生だけでなく地域住民等多くの方々に来ていただき終始静けさを見せる事なく大盛況の2日間でした。

昨今の情勢により色々なものが規制され前年度より開催するのが難しくなっていますが、そんな時だからこそ芸術大学だからこそもう一度芸大祭を1から考え作り上げることによって例年の芸大祭を超えることを知りました。

2013年の芸大祭もきっとさらに面白くなるでしょう。今年も楽しみにしてください！

西キャンパス芸大祭
実行委員長 齋藤世一



国際交流レポート

パリ・エコール・ノルマル
音楽院との姉妹校提携

本学が姉妹校提携を結んでいるパリ・エコール・ノルマル音楽院と、2008年より、毎年5月に、本学作曲コース教員、演奏学科教員と、作曲家でもあり、パリ・エコール・ノルマル音楽院副学長のルイ・マンサール氏により、交歓演奏会が開催されている。そして、交歓演奏会と同時に、マンサール氏による公開講座が催され、特にフランス近代音楽の解釈について、学才的な見地より貴重な講義が行われ、本学学生、教員はもとより、多くの聴衆が耳を傾けていた。

また、2009年12月には、エコール・ノルマル音楽院にて、本学、エコール・ノルマル音楽院教員、さらに本学の大学院院生により、歴史的に有名なコルトーホールにて第1回目の作品演奏会が開催されたが、本年度12月には、第2回目のエコール・ノルマル音楽院での交歓演奏会が行われた。

今回は、本学作曲教員の3作品、エコール・ノルマル音楽院からはマンサール氏を含め、3名の作曲教員からの作品提供があり、全6作品が本学演奏学科教員、大学院生、並びにエコール・ノルマル音楽院の学生、教員によって、ほぼ満席の観客の中、充実した演奏会を開催する事ができた。

本学とエコール・ノルマル音楽院はここ数年特に交流が



盛んであり、作曲教員中心の交歓演奏会の他、ピアノコース学生によるパリでの特別レッスン受講など、活発な交流がなされている。

2013年度より、パリに長期滞在し、一定期間エコール・ノルマルで勉学することでしか取得できなかったディプロマ資格が、本学で、一定の教育プログラムを習得し、最終試験のみをエコール・ノルマルで受験することで、取得が可能になった。

今後も、教員、学生を含め、交歓演奏会の充実や、様々な交流を深める事で、ますます両学の関係が密になることを望むものである。

音楽学部 国際交流委員長 田中範康

大学へのお問合せ先一覧

内 容	担当部署	電話番号	
学納金(学費)について	庶務会計課	東キャンパス (音楽学部・人間発達学部) 0568-24-0315 (代)	
成績について 証明書発行について	教務課		
休学・退学について 課外活動・大学祭等について 住所変更等について 就職について 資格取得講座について アルバイトについて その他学生生活全般について	学生支援課		
本学入試に関する事 本学大学院進学について 本学研究生・研修生について	広報入試課		
教員免許・学芸員資格について	教職センター(実習指導室)		
交換留学について	国際交流センター(学生支援課)		
生涯学習講座について	生涯学習センター(学院広報室)		0568-24-0359 (直通)
音楽学部主催の演奏会等について	演奏課		東キャンパス 0568-24-5141 (直通)
アート&デザインセンターで開催 する展覧会について	アート&デザインセンター		西キャンパス 0568-24-0325 (代表)
後援会について	事務局(事務部長)		東キャンパス 0568-24-0315 (代表)

大学事務局で保護者の方からのご質問やご相談にお応えする場合、以下のような確認をさせていただく場合があります。特に個人情報が含まれる内容に関しては、ご子女の「学籍番号」の確認、本人の確認、保護者の確認を行った後、ご質問やご相談にお応えします。大学に登録されている情報と異なる場合は、お問合せに応じることができませんので悪しからずご承知おきください。

なお、連絡先等を変更された場合は、お手数でも変更の手続きをなされますようお願いいたします。変更の手続きが行われなければ本学からのお知らせや成績等をお届けすることができなくなります。

2012年度
名古屋芸術大学後援会

研修旅行報告

今年度の後援会研修旅行は10月20日、21日の1泊2日で、世界遺産の白川郷、国宝の瑞龍寺、石川県九谷焼美術館、加賀藩の長町武家屋跡、金沢21世紀美術館、近江町市場、そして名湯山代温泉に宿泊と盛り沢山で、見どころ満載の旅を楽しみました。

竹本学長を始め大学教職員の皆様、後援会顧問の皆様、役員、委員総勢34名で有意義かつとても勉強になる旅行でした。

出発してすぐに、好天候のためか高速道路入口でいきなり渋滞になり心配しましたが、その後は快調で、バスの中では会話が弾み、見学場所への期待も膨らみました。

1日目、白川郷で昼食後の散歩は秋晴れの中とても気持ちよく、素晴らしい景色で多くの観光客でいっぱいでした。次に見学した瑞龍寺は、先程とは一変し、豪壮でその静けさには圧倒されました。



最後の見学場所の九谷焼美術館には、閉館間際に到着したにも関わらず、芸術大学の後援会の研修旅行ということで考慮していただき、学芸員さんの丁寧な解説で九谷焼の歴史や種類、美しさをゆっくり堪能することができました。



その日のお宿は、ゆのくに天祥というホテルで、広々としたロビー、温泉は露天風呂が3つもあり、自分で作る温泉たまごも体験できました。

宴会では、美味しい料理とお酒に話も弾み、歌に踊りにと大いに盛り上がり、最後には全員で輪になって手をつなぎ仲良く歌いました。

2日目、お菓子の城で買物の後、武家屋敷跡野村家へ風情のある小道を歩いて行きました。そこは、静寂の中に落ち着いた佇まいの庭園や茶室などの座敷があり、至る所に加賀文化の魅力があふれていました。

階段を上った茶室では、庭園を眺めつつ、和菓子とお抹茶もおいしく頂きました。

私にとって今回の研修旅行のメインイベントである、金沢21世紀美術館が次の見学場所です。



建物は、壁面がガラスで明るく中までみえるような広がりを感じられました。展示は「ソニエリュミエール、そして観智」と題した特別展で、人間を様々な面からみた作品に、触れ体感することができました。展示室の方向や鑑賞する順路などがよくわからなくてウロウロしてしまう時もありましたが、とても興味の惹かれるものや面白い作品があり、難しい作品もありましたが、来て良かったと思いました。

最後は女性にはとても楽しみなお買物ができる近江町市場です。海の幸山の幸などいっぱい、行列に並んで美味しいものをあれこれ食べ歩きました。皆さんもお土産をたくさん買われたのではないかと思います。

今年の研修旅行は、本当に見る所がいっぱいあり、しかもどこも見応えのある見学場所でした。バスの中でも見学場所でもお宿でも後援会の親睦は深まり、参加された皆様とても満足のいく旅行だったかと思います。

副会長(事業委員長) 片山みゆき



後援会補助公開講座実施報告

音楽学部

音楽学部教養部会 「原発事故以後の福島の実状 とくに子どもたちについて」

講演会より補助金をいただき、ここ3年間学生のための公開講座（講演会）を開催しています。2012年度としては2013年1月24日（木）に「原発事故以後の福島の実状 とくに子どもたちについて」というテーマで、福島大学准教授荒木田 岳（あらかだ たける）氏に講演をしていただきました。この講演の目的は、福島原発事故後の実状、特に子どもたちをめぐる実状について現地の研究者より学生に話をしてもらうことでした。

講演では、福島県および近隣県在住の人々が自己の被爆の程度を知らないままに生きていること、また空气中

の放射線量に関わりなく、塵による被爆が深刻であると推定されること、子どもたちに関しては放射線量の測定をする以前に教育委員会が学校再開を決めたことなど、子どもたちに提供される給食がただセシウムのみを測定して提供されていること、多くの諸問題が指摘されました。そして、講演は、「脱原発」よりは「脱被爆」が緊急の課題であるという指摘で終わりました。当日は、東キャンパス1号館701教室（200名定員）の席がほとんど埋まり、多くの学生たちが熱心に話に聞き入りました。

音楽学部教養部会 教授 中河 豊

後援会補助公開講座実施報告

美術学部

旧加藤邸アートプロジェクト2012『記憶の庭で遊ぶ』

明治時代に建てられた国登録有形文化財『旧加藤家住宅』は、日本の民家や生活様式の伝統が息づいています。

ここには北名古屋市が運営する『回想法センター』が併設され、市民の記憶を喚起する様々な活動が行われています。この建物や庭に、毎年秋に、本学の学生・卒業生によるアート作品を展示する表題の展覧会を開催して来ました。

今年も5月下旬の説明会に18組が参加し、その後6月上旬の現地説明会、7月初旬に応募を締め切った段階で12組のエントリーがあり、8月上旬のプレゼンテーション、10月中旬の中間報告会を経て、11月17日（土）～

25日（日）の展覧会に、11組の作品が旧加藤家住宅の敷地内に設置されました。

参加者は立体造形コース卒業生1組と在校生1名、日本画コース学生1名、洋画1コース学生1名、洋画2コース学生3名、陶芸コース学生2名、アートクリエイターコース学生1名、メディアコミュニケーションデザインコース大学院生1名の様々な作品が懐かしさの漂う奥

内と庭に融合するなか、11月23日は音楽学部の有志によるコンサートも開かれ、地元の住民の皆さんも多数参加いただく中、皆それぞれ記憶の庭を遊ぶことができたのではないのでしょうか。

毎年この展覧会への出品者は、本来の自分の制作とは異なり、古い民家の空間と展示の制約の中で、『記憶の庭で遊ぶ』と言うテーマの元、この旧加藤家住宅という場から触発された発想やイメージを、どのような造形としてこの場の記憶を新たにすることができたのでしょうか。今後の創作の転換点、大きな糧となったのなら幸いです。

最後に、この企画は立体造形コースを退官された庄司達さんから引き継いで、庄司さんにも外部メンバーの立場で関わっていただきましたが、庄司さんの細やかな関わりと導き方に匹敵する役割を十分に担いきれていないことを痛感しており、主催者側の今後の課題と受け止め、更に前向きに運営していきたいと願っています。

企画：旧加藤邸アートプロジェクト2012運営委員会

主催：名古屋芸術大学美術学部、北名古屋市教育委員会

後援：名古屋芸術大学後援会

美術学部版画コース アートクリエイターコース

教授 西村正幸



谷本愛のインスタレーション



庭に展示された島内悠里子の作



濱口彩乃の懐かしい玩具の展示



縁側に並ぶ酒井智也陶器

後援会補助公開講座実施報告

デザイン学部

re-design 2000-2012



15年程前、リサイクル&デザインという視点で、既存のものや材料を優れたデザインで別のものに変える課題を、デザイン1年生の実技授業で実施した。

2000年、幼稚園の建て替え(今のクリエ幼稚園)によって200脚近い古いこども用椅子が大学にきた。それらを使ったリデザインの展覧会とワークショップは、こどもに

も大人にも楽しんでもらうことができた。私たちが生活の中で使ってきた、さまざまなものや道具を見直し、それらを新しい視点からデザインし直すこと、またそれらが置かれていた状況や枠組みを変えて使うデザイン、これらを組み入れたワークショップも、私たちの考えるリデザインである。

大学や小学校の椅子、机のre-design project、常滑の商店街、学校の備品のre-design projectなどをいくつも実施した。また製品化されている椅子の座面のカットと脚を変えることによっても、全く別の椅子が生まれる。5年程前に実施した家具メーカー天童木工との産学協同プロジェクトでは、卒業生、学生、によって学内にデザインチームができ、椅子が製品化された。これもリデザイン。

今回の展覧会では、約12年にわたるさまざまなre-designの作品を見てもらい、ワークショップを楽しんでもらった。その頃学生だった人たちは今はデザイナーとして、またその卵として動き始めている。

デザイン学科スペースデザイン研究室
教授 平田哲生

榑木館アートプロジェクト2012「都市を映す家」

於：文化のみち 榑木館

2012年12月8日～16日

「越後妻有や瀬戸内など、昨今盛んに芸術祭が都市を離れ、広がりを見せているが、いま一度アートを生み出す源泉をまちに求めたい。」という、本学で永きに渡って教鞭をとられた、庄司達先生からの呼びかけに、美術・デザインの教員が中心となり、いろいろな分野からアーティストやデザイナーがそれに応じる形で集まった。

会場となる榑木館は、大正期に建築された建物で、東区の榑木町にあり、輸出用の陶磁器を世界に向けて商う井元為三郎氏の邸宅及び庭である。ここは、欧米から陶磁器を買い付けに来た人に対する商談の場でもあり、日本文化を伝える場でもあった。また、ここでおこなわれた交流は大正から昭和にかけての名古屋の都市形成において大変重要な役割を担っている事が、展示されている当時の資料からも想像された。集まった有志は、何度も打合せを重ね議論し、それぞれの制作へと入っていった。洋館と和館が対峙する中庭に作品を展示し新たな視点を持ち込んだり、商談の際、接待に使用されたと思われる座敷に作品を飾ったり、見る側の動きや働きかけに反応する作品であったり、かつての給仕部分や蔵など本来あまり招かれる事のない空間に作品を展示する事で、新たな人の流れを呼び込んだり、作家それぞれが、この場所や役割を解釈し、作品にその思いを込めた。

会期中にはこの邸宅の主人の処世訓である「幸福は我が心にあり」の思いに応えるような茶会が庭のはなれの茶室やそれぞれの作品周辺でおこなわれたり、この空間に呼応し、体現するようなパフォーマンスが催された。また日本各所でまちにアートイベントを仕掛け活性化させる池田



「庄司達作品展示風景」
撮影：尾野訓大

修氏を招き、出品作家を交えたシンポジウムも開催した。

ここではアートをいかにまちに定着させ、起爆剤としての役割を担うか、またそのために、どう市民にひらき、役所などと連携をとって活動を広めていくのか、他の都市の事例などが提示された。池田氏から発せられる言葉には、今回の企画が、作家としてまちから刺激を受け、アートを生み出す源泉となりうるか、またそこで作り出されたアートがまちを刺激していくか、そのためのたくさんのヒントが詰まっていた。

展覧会終了後、作家も企画者も、聞きこられた聴衆も、今回のイベントが一度きりの企画でなく継続してこそ名古屋のまちを活性化する効果も現れる、そのために、この後どう働きかけ、行動するかが問われたような気がした。

デザイン学部 講師 駒井貞治

出品参加者：庄司 達、石山 駿、水谷イズル、
原田昌明、横山晴美、鶴飼昭年、
日栄一雅、尾野訓大、西村正幸、
津田佳紀、松岡 徹、駒井貞治

2012年度名古屋芸術大学特別客員教授 服部滋樹 特別授業 「土と人のデザインプロジェクト」 特別講演会：「農・地域・協働ーデザインの新しいフィールドから」 2012年12月4日 開催

現在デザインが対象とする領域は広範囲にわたり、近年では食や農といった、より我々の生活の根幹をなす分野へのアプローチや、多くの問題を抱える地域社会への関わりが重要なテーマとして注目を集めています。デザイン学部の各コースから集まった学生メンバーを中心に、2012年9月から11月にかけて「土と人のデザインプロジェクトーゼロから晩餐会をデザインする」と題された特別授業が行われました。これは、特別客員教授として招聘した服部滋樹氏から直接指導を受けながら、最終的には大学近隣の地域の方々を招き、晩餐会を催すというものです。

服部氏はクリエイティブチームgrafを率い、これまで空間や食、アートに至るまで、その場で人がどう振る舞いどう感じるのかという総合的な視点から、生活そのものに働きかけをしてきたディレクターです。学生達は近所に借り受けた畑を耕し、大学周辺をリサーチすることからこのプロジェクトをはじめました。そして、晩餐会での料理はもちろん、食器から椅子、テーブルセット、照明に至るまでの一切を、地域の人たちとの交流の中から見つけ出した「資源」を活用し、ひとつひとつ作り上げたのです。

11月13日、西キャンパスのクローバー畑に建てられたビニールハウスの中で開かれた晩餐会の成功は、その一つの成果だった訳ですが、そこに至るまでの試行錯誤は結果として、芸大と地域の方々との新たなつながりを生み出すこととなりました。

そのプロジェクトの総括として「農・地域・協働 - デザインの新しいフィールドから」と題して、名古屋音楽学校ホールにおいて特別講演会が行われました。

講演会では指導にあたった服部氏に加え、地域プロジェクトにおいても多くの知見を持つデザインプロデュー



地域の人々を招待し共に晩餐会を楽しんだ

サー紫牟田伸子氏をお招きし、このプロジェクトが持つ意義や今後の社会におけるデザインの在り方など、広く意見が交わされました。



服部滋樹 × 紫牟田伸子 特別講演会

これまでは命のないモノを扱ってきたデザインだが、これからは命を考えることから始まるデザインが重要になるのではないかといった観点や、決して過剰にデザインするのではなく、ひとつひとつそこに携わる人や素材の意味をくみ取って丁寧に扱うことが、結果として最も豊かなものをつくることにつながるという視点も話題に上がり、プロジェクトに参加した学生はもちろんのこと、講演会に参加して下さった多くの方々にも、デザインが今後、農や地域社会とどのように関わっていくべきか考える上での大きなヒントとして伝わったのではないかと実感しています。

デザイン学科 講師 水内智英



プロジェクトに参加した学生たち

後援会補助公開講座実施報告

人間発達学部

「親と保育者とのつながりを育む
“子どもの心” ～保幼小連携を見通して～」

慶應義塾大学医学部専任講師・慶應病院小児科外来医長 渡辺久子先生

2012年10月13日(土)午後2時30分より、「ウィルあいち」大ホール(愛知県女性総合センター内)において、慶應義塾大学医学部専任講師・慶應病院小児科外来医長の、渡辺久子先生をお招きして2012年度名古屋芸術大学人間発達学部特別公開講座「親と保育者とのつながりを育む“子どもの心”～保幼小連携を見通して～」を開催いたしました。

人間発達学部では、2008年4月に「人間発達研究所」を設立し、研究活動の推進とともに「地域に開かれ、地域に貢献する」学部を目指して、各種の事業を実施して参りました。この講座はそうした事業の一つで、本年度も後援会から補助をいただき、学生はもとより広く県内外の一般の方や保育・教育関係者に呼びかけ、当日は400名以上の参加者を得、開催することができました。

講師の渡辺久子先生は、慶應義塾大学医学部を卒業後、小児精神科医学、精神分析学、乳幼児精神医学をご専門とされ、現在は、慶應病院小児科で思春期やせ症、被虐待児、人工授精で生まれた子ども、自閉症、PTSD(心的外傷後ストレス障害)など、工業化社会の複雑な葛藤に生きる子どもたちを治療的に支援されております。

先生は冒頭で「赤ちゃんの世界、幼子の世界は、芸術そのものですし、芸術的です。そして私たちの、生きる喜び、クオリティ・オブ・ライフといわれていますけれども、生きる喜びというものも、かなり芸術的です。そういったことを私は約40年にわたって医学部を卒業してから医者として子どもと取り組んできて、たくさんの子どもたちから教えてもらいました」と話されました。

そして明日にも命の危ない子どもでも「ほんのちょっと体が楽になると、夢中になって遊びます。…それから、甘えます。…遊びと甘え、この2つがしっかりと乳幼児期に満たされている人は、必ずいい人生をおくるのではないかという、私は確信に近いものを持っています」と話されました。

先生のおっしゃる「遊びと甘えというのは、単に字で書いた甘えとか遊びであるうちはダメであって、ほんとうに芸術的というか音楽的というか、絵や歌や踊りのように、ウキウキワクワクするような形で、その子の中から沸き起こっている」ものであり、そういう形の時に「その子はとてもいい人生を送ることになる」とお話し下さいました。

そして、私たちや社会が「幼い物言わぬ子ども、物言えぬ子どもたちから」たくさんのエネルギーをもらい、それによって「社会が生き生きと進化」しているのだから、親と子のかかわりをどのように支えていくことが大切かについて、様々なご経験に基にお話しして下さいました。たくさんのお話の中で、先生が東日本大震災後に、郡山市で、疲れ切った被災者の方々に言葉をかけられた時のことが大変印象的でした。

先生は、その折の働き掛けの意味についてこのように言われました。「お母さんが緊張していたり、不安だったりいらいらしていたりしたら、赤ちゃんはそれで大好きな人のために、命懸けで何をしようか緊張します。そこで郡山市には全戸5万戸の子どもたちに、お母さんの不安を包みましょう。そしてお母さんが治療者になりましょう。お母さんが子どもの不安を包みましょうと言って、お母さんを抱きしめましょうとしました」。

先生は親子についての思いを、発達心理学者のダニエル・スターンの言葉を取り上げながら「お母さんと赤ちゃんは一体で生きています」。そして「一体で生きているその赤ちゃんとお母さんを、社会がオーケストラのようないい音色で包むと、赤ちゃんは大丈夫です」と話されました。

時間が過ぎるのを忘れてしまっていた。私たちはそんな充実した時間を過ごすことができました。講演を終えられた渡辺先生に、会場から大きな拍手が送られました。

子ども発達学科 准教授 阿部 孝



慶應義塾大学医学部専任講師・慶應病院小児科外来医長 渡辺久子先生

名古屋芸術大学音楽学部 第40回卒業演奏会

名古屋芸術大学音楽学部第40回卒業演奏会が、2月28日・3月1日の両日、三井住友海上しらかわホールにて行われた。

毎年卒業試験において優秀な成績をおさめた学生が卒業演奏会に選抜されるが、今年は24名（声楽4、ピアノ6、電子オルガン2、弦管打11、作曲1）が出演する事になった。各々の学生は4年間に培った技術、感性を駆使して、見事な演奏を披露していた。

2日間に渡り会場には多くの観客が詰めかけ、演奏に対する惜しみ無い拍手を送っていた。

演奏委員会委員 依田嘉明



名古屋芸術大学大学院音楽研究科 第15回修了演奏会

大学院音楽研究科第15回修了演奏会が、2013年3月7日・8日の二夜にわたり三井住友海上しらかわホールにおいて声楽専攻・器楽専攻の9名の出演により開催致しました。

7日にはピアノ・チェロ・ソプラノ、8日には打楽器・バリトン・ソプラノ・ピアノにより、いずれもコレギウム・アカデミカ管弦楽、濱津清仁指揮による演奏でした。声楽専攻は、オペラ研究領域よりソプラノ2名、バリトン1名の3名が出演



し、G.ドニゼッティ作曲歌劇「ドン・パスクワール」、G.ヴェルディ作曲歌劇「椿姫」、「リゴレット」のそれぞれアリアの演奏でした。

2年間の歌唱法の研究、微妙な心理的描写の表現できる役作り等難易度の高い作品に取組み、その通りの成果があげられたことと思います。

器楽専攻ピアノ領域は、今年度4名の修了生を送り出します。この2年間、ピアノ音楽を色々な角度から専門的に密度の濃い研究を重ねてきた集大成として、ピアノ協奏曲に臨みました。4名それぞれ自ら研究課題として選んだ、モーツァルトの第24番、グリーグ、サン＝サーンスの第2番、ラヴェルのト長調を演奏致しましたが、いずれも精一杯の練習を積んできており、心溢れる素晴らしい演奏でした。

弦管打研究領域は、チェロによるE.エルガー作曲「チェロ協奏曲(Op.85ホ短調)」、打楽器ではA.ジョリヴェ作曲「打楽器のための協奏曲」をそれぞれ演奏されました。2年間の研究成果が十二分に発揮できた演奏でした。

大学院音楽科研究科長 堀田秀雄

名古屋芸術大学美術学部 第40回卒業制作展

今回で40回となる名古屋芸術大学卒業制作展は2月19日（火）から24日（日）までの6日間、愛知県美術館ギャラリー（美術学部／美術学科日本画・洋画・美術文化デザイン学部／デザイン学科全コース）、名古屋市民ギャラリー矢田（美術学部／美術学科彫塑・立体造形・ガラス・陶芸・アートクリエイター・版画 デザイン学部／メディアデザイン・メタル&ジュエリーデザイン・テキスタイルデザインコース）、名古屋芸術大学西キャンパスでは、アート&デザインセンター（デザイン学部／スペースデザイン・インダストリアルデザイン・セラミックデザインコース）の三会場において作品展示がされました。

また、愛知芸術文化センター12階にあるアートスペースE、Fにおいて映像作品上映会、美術文化コース優秀論文発表会が行われ、地下2階のアートスペースXではビジュアルデザインコースの作品展示がされました。

恒例となった三会場を巡るスタンプラリーによる学生作品プレゼントは今回品数も増え大変好評でした。コンペ形式によるポスター、チラシ、DMのデザインは年々

増えていく応募作品の中から田中宏枝さん（デザイン学科ビジュアルデザイン選択コース4年生）の作品が選ばれました。印象的なデザインは人目を惹き大変効果的でした。

今年の卒業制作展は会場面積が減り心配されましたが、各コース展示工夫がされ充実した印象を受けました。経済が低迷している中でも若者達の視線はしっかりと未来に向き、美術・デザイン共に新しい事に挑戦しようとする意気込みが伝わってきました。また、素材に再度着目し、それを生かす工夫がされた作品が多い事にも目をひかれました。基本に立ち返り、着実に地盤を固め進化していく制作態度に好感が持てました。卒業制作にあたって経験してきた全てのドラマが学生達の将来に繋がって行く事を願わずにいられません。

また、23日（土）には、愛知芸術文化センターのアートスペースAにおいて東京藝術大学大学院映像研究科教授 佐藤雅彦氏をお迎えして「作り方を作る」というタイトルで卒業制作展記念講演会を開催しました。数々

の名作がどのようにして生まれてきたのかユーモアあふれる口調で惜しみなく伝えられました。佐藤氏からの「自分なりの方法論を持って欲しい」「深く考えるより行動に移すこと」と言う言葉は若者達の希望に繋がると共

に、出口を失った時の救世主ともなるメッセージだと思いました。皆様のご協力により約6,000名の来場者を迎え、閉展出来ました事を感謝申し上げます。

卒業制作委員長 荒木紀江



第40回卒業制作展 記念講演会報告

2013年2月23日(土)、第40回名古屋芸術大学卒業制作展記念講演会が愛知芸術文化センターアトスペースAで開催されました。慌ただしい卒業制作展のさなか、みなさまのおかげをもちまして、楽しく、盛況な講演会となりましたこととお礼申し上げます。ありがとうございました。

本年度の講演者は、クリエイティブディレクター佐藤雅彦氏で、誰もが知る、あの「パズールでござーる」「ポリンキー」「ドンタコス」などのテレビコマーシャルや、レコード大賞特別賞をとり、ものすごい売り上げをした「だんご3兄弟」、そして、今や若い人に大人気のNHKテレビプログラム「Eテレ0655/2355」「ピタゴラスイッチ」など、数々の映像作品を作られています。「作り方を作る」と言う演題は、いかにも佐藤氏らしい。来場者は若い人が殆どで、期待の高さが場内を熱くしていた。

講演はISSEY MIYAKEの映像から始まった。パリでファッションショーなどで上映された映像で、NHKが得意なモーションキャプチャーで作られたような斬新さは、見る人の心を一瞬でキャッチしてしまった。次に紹介されたのが「アイデアの工場」DNP大日本印刷のGビル(五反田)のシアターで上映されるイントロダクション映像で、知的な工場ラインのアニメーションが次々と映し出され、

美しい流れる工場ラインに圧倒された。音がすばらしく、フルオーケストラのシンフォニーのような、心洗われる美しさであった。次に紹介されたのが、「ballet rotoscope」実写とアニメーションを合成した映像で、美しいバレリーナのつくりだす不思議な形が、見る人の心を虜にする作品です。

「作り方が新しければ、出来たものは新しい」佐藤正彦氏の言葉にはリアリティがある。「アルゴリズム体操」「こんなこと出来ません」などのコマ撮りアニメーションや、「ピラゴラ装置」など、次々に紹介され、「作り方」の謎解きは、いかにも教育者らしい。「映像は音から作る」これが基本のようで、今まで作られた数多くのコマーシャル、映像作品は、確かにナレーションが印象的である。

「自分自身で作り方をを見つける」「ルールとトーン」「ピタゴラクウォリティー」「安定して驚かれる」など、次々に飛び出す言葉と映像に、本物のクリエイターの凄さを見せていただきました。

盛り沢山の内容でしたが、佐藤雅彦氏には、まだまだ時間が足りなかったようでした。次の機会にもっともっと紹介していただけることを願って、今回の講演会を終了しました。ありがとうございました。

運営委員会委員長 祖父江博史

名古屋芸術大学大学院美術研究科 第17回修了制作展

名古屋芸術大学大学院美術研究科は、この度17回目の修了生を送り出すこととなりました。

本研究科は、絵画、造形、同時代表現、美術文化の



4領域を備え、広い知識と深い思考に導かれた自己の確立とその表現方法の深究を、教育・研究の目標として掲げています。東日本大震災の後遺症が癒えぬ中、社会のグローバル化と価値観の多様化が進む「今」にあって、本修了生達はこの激動の時代を全身で受け止め、各々が自己の感性を信じ価値を求め研鑽を重ねて参りました。ここに発表されている作品は、現時点における彼らの集大成としての自己表現であり、本修了展は芸術家としてのスタートの場ともなるものです。

ここに生まれた若き作家達が、今日の課題を真正面からとらえ、大きく成長してくれるものと信じ、期待しております。

今後とも彼らを温かく見守っていただきますとともに、合わせて更なるご支援とご指導をお願い申し上げます。

美術研究科長 神戸峰男

名古屋芸術大学大学院デザイン研究科 修了制作展

名古屋芸術大学大学院デザイン研究科は、学士課程でのデザイン教育を踏まえて、より専門的職能に携わる為の知識と技能の修得をめざし、広域なフィールドで次代のデザインをリードできる人を育成することを、目標としています。

人間の生活、その他の生態系を含めた環境全体の将来にわたる持続的な共生の思想：エコロジカル・デザインを、全専攻領域に共通するテーマとして持ち、幅広いデザイン研究カリキュラムを用意しています。

研究領域は、(ヴィジュアルデザイン研究/メディアデザイン研究/ライフスタイルデザイン研究/3Dデザイン研究/クラフトデザイン研究)の5領域(5ユニット)からなり、各ユニットの専門領域研究をベースに、他領域のデザインユニットと共同で研究活動を行うことにより、広角なデザイン研究活動をめざします。

今年度も又、新たな修了生が社会に出ます。一社会人としての始まりです。様々なデザインの現場で、今後とも皆様のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

デザイン研究科長 落合紀文



2012年度 デザイン学部 「Review」展

第30回目のレビュー展が2013年1月12～13日、19～20日に開催されました。

今年もレビュー展のポスターにヴィジュアルデザインコースが取り組み、3年生の野村菜摘さんのポスターが選ばれました。デザインの「集約と放出」を渦巻きのかたちで表現したポスターになっています。野村さんは、自由でのびのびと過ごせる環境で作業できることが名古屋芸術大学の特徴として挙げてくれました。次年度の一年間は、さらに企画力を身につけ、いろんな人に自分の作品を見せていきたいと抱負を語っていただきました。また、AO入試、推薦入試の合格者対象の入学前プログラムを実施し、4月か



ビジュアルデザインコース3年 野村菜摘さん

ら名古屋芸術大学の一員となる高校生がレビュー展を見学してくれました。

最後になりますが、本展にお越しいただきました卒業生、保護者、後援会の方々に礼を申し上げます。

デザイン学部デザイン学科
講師 竹内 創



2012年度 ブライトン 大学賞

二年前の東日本大震災大惨事（福島第一原発）址は、只々闇雲にも均されて平地に戻り施された処と躯体残骸を残した中に草が生い茂り此処に住まいし人達の一時帰還帰宅はあれども今もって居住は許されておらず、『復興』『支援』の二文字に元気を得ずも、踊らされ掻き立てられて全国民は奮起努力、注意喚起されるも一向に其の収益改善は目覚ましくも変化したとは眼に見えてこず。

人気無き処に何時の間にかイノブタが矢鱈と繁殖し暴走を繰り返し田畑を反して新芽を貪り（むさぼり）食い荒らし、尚も癒えない儘に無念の時間ばかりが無限に過ぎ去るばかりだ。深刻で計り知れぬ自問自答の重圧日々は更に続くのだろう。放射能汚染除染も思うにならず進まず、却って其の作業を曖昧化している。酷く怖い話だ。

隣国、中国北京市内の空が如くに環境汚染の影響諸に受け大気汚染汚濁、濃霧に遮られて一寸先も見えず不安の一途にある。大気圏上空は続き日本上空やアメリカにも有害物質を含む微小粒子が越境汚染してきている。

此の時期に猛威を振るう花粉、インフルエンザウイルスと共に何と7,980円もするという高機能なオーダーメイドマスク（抗体マスク）が飛ぶように売られている。防塵防護マスクをしていても通過し肺に侵入到達してしまう、飛来する汚染有害物質『PM2.5』たちの悪い粒子対策のようだ。九州は福岡市、中部は名古屋市、また関西は大阪府にも飛来しており深刻さを増す。

旧正月を迎える花火と締めくくりの爆竹花火で益々悪化の環境テロ、大気汚染問題、黄砂と係る。嘗て自然災害、阪神・淡路大震災よりも18年経つが地震火事とで災を大きくし燃えつくし舐めした大地と高速道路倒壊より癒えぬ月日が過ぐ。



本年の審査に伴い四度目の来日となる（写真）のProf.Karen Norquay（カレン・ノーキー）アート・デザイン・メディア学部長と共に、初めて審査に加わりし初来日のMs.Lara Perry（ララ・ペリー）さんは、ブリティッシュ・アート、及び美術館の歴史についての研究者（フェミニズムの歴史・女性の歴史）を教授される（人文学部・主任講師）のお二人が出席がされた。

前年に続き成田経由の新幹線予約で18日に来日され無事名古屋入りを果たされた。昨年はずきりと晴れて見えた富士山を楽しまれての車窓だったが、今回は成田東京国際空港に16:00pm到着、名古屋駅到着は、雪交じりの冷たい雨が降り続く21:30pmにお二方を迎え宿泊先への案内を加藤氏がされた。（昨年会期は2月21日（火）から26日（日）迄が若干早まる。）此の一年は此処に長く勤務されし人の退職に其れを補う人（加藤多美子さん）の新規採用があり後に残る私は二人三脚で懸命に遣ってきた。

The University of Brighton Awards 2012

賞	コース	受賞者氏名	作品名
グランプリ	ジュエリー &デザイン	川崎 和美 (Ms.Kazumi Kawasaki)	法則性と偶然性Ⅲ (the low nature and contingency)
優秀賞	メディア デザイン	山田 麻由 (Ms.Mayu Yamada)	バルカロール (Barcarolle)
奨励賞	ヴィジュアル デザイン	加藤 大貴 (Ms.Taiki Kato)	名は体を表す (names and nature do often agree)
	版 画	宇城 愛里 (Mr.Airi Ushiro)	ごめんね (sorry)
佳 作	洋画 2	波部 早紀子 (Ms.Sakiko Habe)	蝟目/飽和 (brazing mark/saturation)
	ガラス	三ツ井 美帆 (Ms.Miho Mitsui)	Serendipity
	洋画 2	富田 典余 (Ms.Noriyo Tomita)	リボンを返したくて (want to give back this ribbon)
	アート クリエイター	本間 恵里加 (Ms.Erika Homma)	ゆきやなぎ (Spiraea)
	スペース デザイン	加藤 千恵 (Mr.Chie Kato)	森を想う 成形合板と間材を使ったツール (thinking about the woods)
	テキスタイル デザイン	神農 有美 (Ms.Yumi Jinno)	階位女子個室 (Private room of the ranked girl)

此の最大イベントが無事に終了して間もなく国際交流センターの仕事も終了する。『第40回卒業制作展』は2月19日(火)から24日(日)迄で今年も恒例の英国ブライトン大学賞の栄えある授賞式が22日(金)16:30pm～名古屋東急ホテル4階『栄の間』にて関係者に見守られるなかに盛大に執り行われた。グランプリ(最優秀賞)1名、優秀賞1名、奨励賞2名に佳作6名(内訳:男子1名・女子9名)が審査員の講評と手書き署名入り賞状を受領した。

三会場審査は19日(火)に一日掛け実施。荣誉(名誉)の賞をいただいて其の冠を得る者に早くから英国より外為送金がされた。昨年は2月7日に、本年は1月17日に入金された。

現地からの強い意気込みが一層感じられる。でも手数料の4,000円がまるまる中間搾取され手元に不足の儘に届けられる。年一回の大イベントとは云いつつも其の時々の担当者は此の単純ミスを忘れてしまう。高額な料金の手数料のあることを忘却していることだ。来日早々に審査員より不足料金をいただき補充するも選ばれし人達への嬉しき感動のご褒美と消えた。

恒例の三会場審査に於きProf.Karen Norquay氏は、前年同様にご愛用の『i-pod』を持参されて、気がかりな作品を回って念入りに鑑賞されて記録。各科教員より事前に示された各科コース別三枠nominate作品以外にも優しく見守る真摯な姿に打たれる。全体的にも選り良い作品との出会いに、とても慎重であられた。(県美:34点)(矢田:12点)(NUA:A&DC2点)をじっくり鑑賞された。

此処数年間、審査員と共に引率同行しながらも審査風景を見守ってきたが、方向の異なる三会場に分けての展示から一堂に全作品が見渡せる一望可能な展示空間施設があれば、其の移動手間の苦心苦労も瞬時に解消されるかと想います。

恒例のスタンプラリーは続く楽しみはあるけれども、国内外の老若男女の鑑賞者や見学者たちの立場を考慮すれば、三会場の展示演出は本当に必要なのかと…毎回思うのです。必ずしも分散型展示の演出が良い効果を齎し示すとも限らないのではないかとさえ想う処です。



其れこそ毎年1月実施のデザイン学部が発表する『REVIEW』展示時が如く、体育館を活用したり、学内有効施設を駆使すれば選り良い効果も出てくるだろうし、造形立体彫刻作品は矢張り優しい自然光の野外での展示が望ましいのではないかと。

葉々を通した木漏れ日の中で見守り眺めるのが選り自然であり良いのではないか。体育館にて入学式、卒業式更に卒業制作展も学内で存分に魅せる方法とはないものだろうか?僅かながらも中央進出し設備の整う場の選択も良いけれど大学自体をもっと足元から見つめ直し充分に活かせる場所として、発想や考え方一つで、其の演出は可能なのではないかと。

多くの芸術作品鑑賞は俄然元気がなければ全会場を精力的に見て回れない。毎年NUA会場入場者数は二会場に比して惨憺たる数値にある。閑散として信じられぬ程に其の活気さに欠ける。人の往来も無く学生協力のお楽しみなスタンプラリー参加者に大いに助けられているに過ぎない。『第40回学部卒展』を一区切りとし一度振り返り『原点』に戻りNUA全体施設で展開し創意を結集し工夫して展示し演出してみたらどうだろうか。

其の度に掛かる搬出入と展示の無駄な運搬労力も無ければ不要の気遣いもなく精一杯、其の展示演出に精一杯掛けられるのではないだろうか。北名古屋市で生まれし作品の効果的展示を今一度、考えるべき時ではないだろうか。生産者(制作者)と産地の分かる信用といったものの証を精一杯アピールさせる絶好のチャンスでもある訳ではないかと考える処だ。寧ろ異質空間に敢えて置き眺めるよりも充分安心安眠して説明が出来る西キャンパス施設を改めて見直し、極力駆使して是非とも豊かに並べよう。コミュニケーションを通して学内展示の素晴らしさを感じよう!

朗らかに、高らかに鼓動して、心を打つときめきをいただいた『第40回名古屋芸術大学卒業制作展』!

今年も本当にありがとう。受賞者たちは此の機会を経て益々の精進と研鑽を重ね自信を得て世界の国際舞台への大なる飛躍と共に活躍を願い筆を置きたい。

永きにわたりありがとうございました。

西キャンパス 学生支援課
国際交流センター 川島憲雄



第23回 名古屋芸術大学 生涯学習大学公開講座（報告）

本学生涯学習講座は今年で23回目を迎え、東西キャンパスで合わせて26講座を開講しました。昨年度まで引き続き実施してきた講座に加え、写真、小説、ストール制作などの新たな講座を開講し、好評のうちに終了することができました。また、名古屋市生涯学習推進センターの「大学連携講座」や「シリーズ講座」でも多くの方に受講していただきました。

今後も皆さまの幅広いニーズにお応えできるよう、充実した講座開設に努めて参ります。皆さまのご参加をお待ちしています。なお2013年度の講座につきましては、6月中旬頃にご案内冊子が完成する予定です。

お問い合わせは、本学生涯学習センターまでお願い致します。また、名古屋市連携講座に関することは名古屋市生涯学習推進センターまでお問い合わせください。



▲二胡を楽しむ 入門編



▲粘土による造形 テラコッタ



▲天然の染料で染める、オリジナルのウールストール



▲子ども造形と形遊び

2012年度 名古屋芸術大学 生涯学習大学公開講座

	講座名	受講者数	開催場所	
1	二胡を楽しむ ～入門編～	13	東キャンパス	
2	オカリナで楽しむ癒しのアンサンブル (初めての方向け)	19		
3	オカリナで楽しむ癒しのアンサンブル (経験者向け)	23		
4	歌舞伎に見る遊びごころ「虚と実」	7		
5	ゆっくり楽しく【2時間】学ぶ イタリア語基礎 (入門～初級)	13		
6	インターネットとWordではがき作成	8		
7	歌唱発声音楽療法 一肺活量を増やして元気に長生きー	25		
8	人物(着衣)のデッサンと油絵実技	11		西キャンパス
9	美しい水彩画Ⅲ 一秋を描く、野と森と花ー	32		
10	ビギナーズチョイス 一素描を楽しむー	15		
11	カラー銅版画講座	9		
12	体験！リトグラフ ～多色刷り石版画で作品を～	8		
13	木彫を楽しむ PartⅩⅡ	15		
14	やさしい陶芸講座 (作陶から絵付けまで)	10		
15	粘土による造形 ～テラコッタ～	8		
16	やさしい創作折紙	18		
17	美術鑑賞入門 ーフランス絵画の魅力ー	19		
18	ハンゲルへようこそ	19		
19	小説家になれる小説の書き方	12		
20	楽しいピンポン (卓球)	14		
21	デジタル写真ライフ ー撮ったら見せて楽しく！ー	6		
22	Photoshop！簡単デジタルコラージュ入門！	16		
23	織りの表情を楽しむ ーリジッド機を用いてー	6		
24	天然の染料で染める、オリジナルのウールストール	12		
25	子ども造形と形遊び 「和久洋三が提唱するWM (和久メソッド) 創造共育」(幼児クラス)	7		
26	子ども造形と形遊び 「和久洋三が提唱するWM (和久メソッド) 創造共育」(小学生クラス)	7		
	合計	352		

2012年度 名古屋市大学連携講座参加者数

学部	講座名	受講者数	開催場所
人間発達学部	どうする？日本の保育制度と内容 ー先進国の成果と教訓を踏まえて、抜本的に考察してみようー	38	名古屋市女性会館

2012年度 シリーズ講座参加者数

コース	講座名	受講者数	開催場所
声楽	歌唱のための発声法 ーIPA (国際標音記号) を活用してー	193	名古屋市女性会館
サウンド・メディア	21世紀のクラシック音楽		

学生部からのメッセージ ～今年度の就職状況等について～

今年度も残すところわずかとなり、卒業、あるいは新年度に向けた準備等で何かとあわただしい時期になってきました。さて、景気の不安定傾向に影響を受け、本年度の卒業生の就職状況も昨年度同様厳しい状況にあります。現時点において就職活動を行っている学生もまだいるのが現状です。

しかしながら、そうした厳しい状況下でも2月時点で、人間発達及び音楽学部では保育士、幼稚園教諭、小学校教諭など人間発達において社会に貢献できる人材の育成に努力してきました。そして何より学生自身の努力で、教員採用試験で小学校に愛知県、名古屋市、三重県で14名(卒業生を含む)、中学校音楽7名、補欠1名、特別支援学校音楽に1名、また私立高等学校音楽に1名合格

しました。公立保育園6名、公務員行政職2名が合格しました。さらに私立幼稚園・保育所にも多くの学生が決まりました。

またデザイン、美術学部では、ホンダ2名、スズキ2名、ヤマハ1名、松河屋、大鹿印刷などの大手企業に採用され、教員採用試験で愛知県1名(補欠)合格しましたが、このほかにも多くの学生が内定をしています。

残念ながら、まだ決まっていない学生もおり、引き続き内定獲得に向けて努力していきますとともに、一人でも多くの学生が夢や希望を叶えられるように就職・キャリア支援の更なる強化を語り検討していきたいと思います。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

学生部長 菅嶋康浩

同窓会総会・卒業生懇親会

〈音楽学部〉

去る2012年11月25日(日)に名古屋ガーデンパレスにおいて、音楽学部同窓会総会と、同窓会及び音楽学部共催の「卒業生懇親会」が開催されました。

総会は山田正丈会長(10期 声楽卒)を議長に、平成24年度事業報告・決算報告、平成25年度事業計画・予算案、理事改選などを審議し、いずれも原案どおり承認されました。

総会閉会后、会場を移しての「懇親会」は約230名の参加者を迎え、今回も盛会となりました。加藤尚二さん(13期 音教卒)の司会によるパーティーは山田会長の挨拶で始まり、歓談の輪がいくつものなか、ピアノの山本多恵佳さん、声楽の若田瞳さん、電子オルガンの小笠原原乃さんによる演奏も加わり、おおいに盛り上がりました。また今回のゴールデンプライズは、横浜国際音楽コンクールでピアノ協奏曲部門第1位を受賞された山本多恵佳さん(38期 ピアノコース)に贈られ、返礼演奏が披露されました。

恩師や友人との久しぶりの再会ということもあり、パーティー終了後もロビーには尽きることのない話し声があふれていました。

音楽学部器楽科 弦管打コース卒業 浜島理恵(27期)

〈美術学部・デザイン学部〉

去る2012年11月11日(日)、ルブラ王山において、第25回美術・デザイン学部同窓会総会・懇親会が開催されました。

総会は芳賀基純副会長(20期 洋画卒)が司会と議長に、青木高弘会長(20期 洋画卒)の挨拶に始まり、その中に新規事業で卒業生から在校生への「就職アドバイス」(試みとして10月27日1年～3年生対象に行いました)を年数回行うので協力の依頼があった。その後、2011年10月1日～2012年9月30日までの事業報告・決算報告、2012年10月1日～2013年9月30日までの事業計画・予算案が担当者から提案があり、原案どおり承認されました。

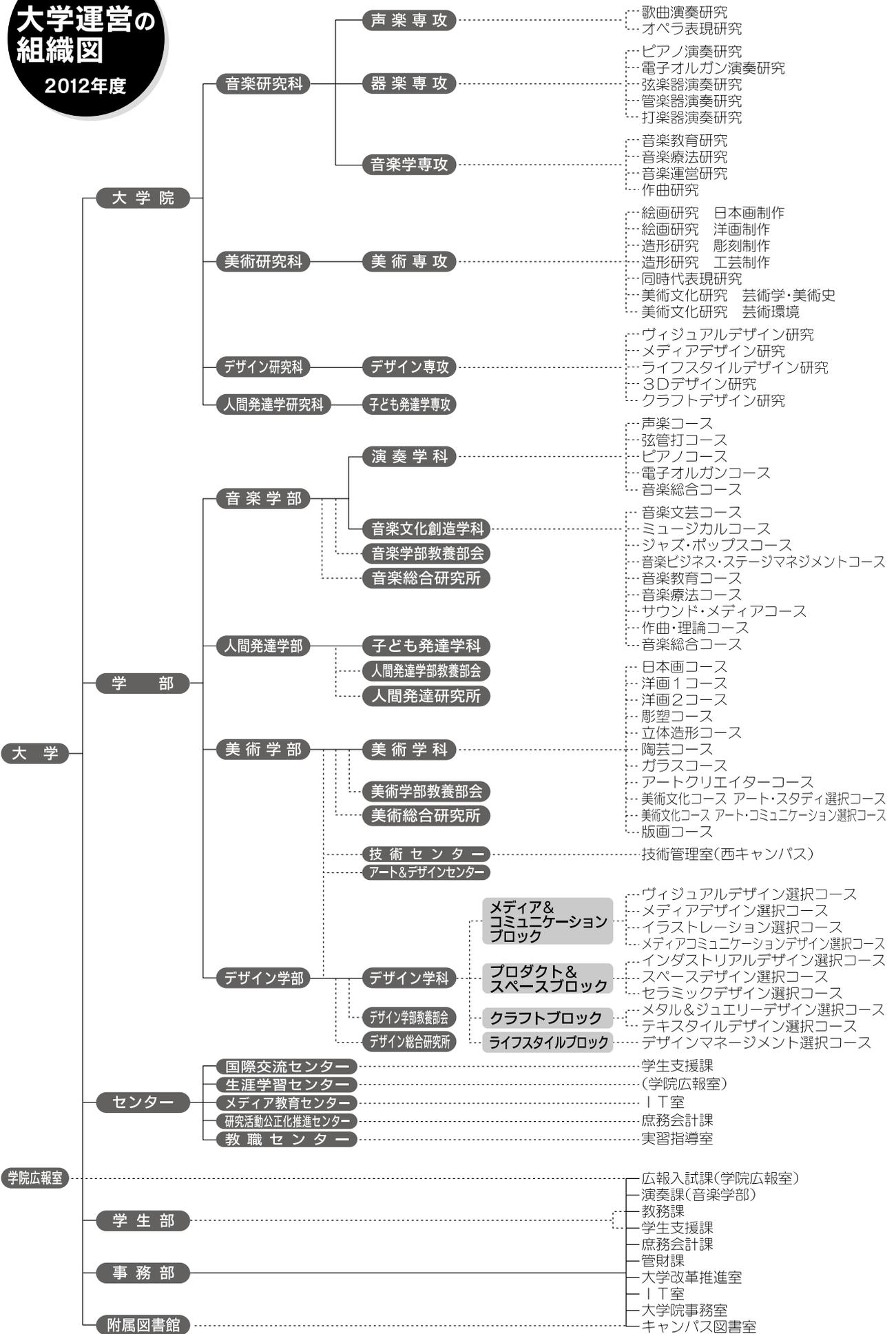
会場を移しての懇親会は、加藤雄一郎評議員(28期 彫刻卒)と佐竹亜希子評議員(28期 日本画卒)が司会を行い、竹本義明学長・川村大介理事長のご挨拶をいただき、音楽学部へ依頼したジャズトリオの演奏を聴きながら始まりました。恩師や友人との久しぶりの再会、年を隔てた同窓生との新しい繋がりが生まれ、輪の広がりを感じる良い機会となりました。

美術学部美術学科教授 岩井義尚(5期 彫刻科卒業)



大学運営の組織図

2012年度



名古屋芸術大学後援会会則

- 第1条 本会は名古屋芸術大学後援会(以下「本会」という)と称し、事務局は名古屋芸術大学内におく。
- 第2条 本会は名古屋芸術大学の教育方針に基づき、大学諸活動の後援を目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- (1) 学生の課外活動への援助と学生の福利厚生に関する援助。
 - (2) 大学の正常な運営への寄与と、保護者の希望を大学に反映させる活動。
 - (3) その他本会の目的達成に必要と認める事業。
- 第4条 本会は名古屋芸術大学学生の保護者または、これに代わる者及び役員会が認めた本学卒業生の保護者をもって組織する。
- 第5条 本会に次の役員をおく。
会長1名、副会長4名、監事1名、会計監査2名、書記2名、会計1名。
- 第6条 本会の役員選出は次の方法による。
- (1) 役員は総会において会員の中から選出する。
 - (2) 書記、会計は役員の中から会長が委嘱する。
 - (3) 役員の任期は1カ年とする。但し再任は妨げない。
- 第7条 本会役員の仕事は次の通りとする。
- (1) 会長は会務を統括し、副会長は会長を補佐、会長事故ある時はその代理をする。
 - (2) 監事は会務を監査する。
 - (3) 書記、会計は会長に委嘱された会務を行う。
- 第8条 本会の会議は総会、役員会とし、議長はその都度選出する。
- 第9条 定期総会は原則として年1回、5月に会長が招集する。必要と認めた場合は臨時総会を開くことができる。
- 第10条 総会は次の事項を審議・決定する。
- (1) 事業の実施、収支決算及び予算に関すること。
 - (2) 会則の改定、会の解散に関すること。
 - (3) 役員の選出、その他の役員が必要と認めた事項。
- 第11条 総会は出席会員で成立し、議事は出席会員及び出席者に委任した者の過半数をもって議決する。
- 第12条 役員会は出席役員で成立し、会長が招集、議事は出席役員の過半数で議決する。役員会は総会への提案と決定事項の実施、運営にあたる。
- 第13条 本会に顧問をおくことができる。顧問は役員会の承認により、会長が委嘱し、会長の要請により各会議に参加し意見を述べる。
- 第14条 本会の経費は、会費及び寄付金をもってこれにあてる。会費は入学時16,000円、2年次以降年額10,000円とする。
- 第15条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月31日までとする。
- 第16条 本会則の運営に必要な事項は役員会の議を経て会長が定める。
- 附 則
- 1 本会則は昭和62年6月22日から実施する。
 - 2 本会則は昭和63年6月12日一部改正し、即実施する。
 - 3 本改正会則は平成10年5月31日から実施する。

名古屋芸術大学後援会の弔意に関する内規

1. 学生が死亡したときは、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金1万円を給付する。
 2. 保護者(父・母)が死亡したときも、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金5,000円を給付する。
 3. 役員の子2親等血族および1親等の姻族が死亡した場合は、弔慰金として5,000円を給付する。
 4. 弔慰金の給付については、事由の発生から1年以内に後援会事務局に申請されたものに限る。
 5. この内規により処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会に事後報告する。
- 附則1. この内規は、慣例的に実施していたものを平成15年4月1日付けで明文化する。
- 附則2. この改正内規は、2006年6月1日より施行する。

名古屋芸術大学後援会顧問の委嘱に関する内規

1. 名古屋芸術大学の顧問は、原則として、役員会の承認に基づき、会長、副会長経験者の中から会長が委嘱する。
2. 顧問の任期は、会長経験者は15年、副会長経験者は10年とする。
3. この内規に基づき処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会の承認を得るものとする。

附則 この内規は2005年(平成17年)4月1日から適用する。

後援会学費貸付事業

最近では景気回復の兆しがあるようにマスコミは取り上げていますが、全体的にまだまだ不況であることに変わりはないと思われます。また、2011年に起きた東日本大震災に代表されるように、大小の差はありますが、日本中で様々な災害が起きています。こうした厳しい状況の中、保護者が亡くなられたり、病気や失業されたりしたご家庭は大変だと思います。こういったことに対して少しでも助けになればと始められたのが、この学費貸付事業です。後援会の皆さんの会費を基金にしているため、貸付を受けるにはいくつかの条件がありますが、2011年度からは最高学年在学者を対象とするよう運用を変更いたしました。本規程をお読みいただき学費貸付事業を活用していただけたらと思います。申込み受付窓口は各キャンパス学生支援課となっています。気楽に相談してみてください。

名古屋芸術大学後援会学費資金等の貸付規程

(目的)

第1条 名古屋芸術大学後援会(以下「後援会」という。)が行う学生の福利厚生事業の一環として、家計急変等により学費の納入が困難な学生に対し、後援会が学費を貸し付けることにより修学を援助することを目的とする。

(定義)

第2条 この規程により学費の貸付を受ける者を、名古屋芸術大学後援会学費貸与生(以下「貸与生」という。)と称する。貸付する学費を名古屋芸術大学後援会貸付金とする。

(資金)

第3条 学費貸付金は次の資金をもってこれにあてる。

- (1)後援会学費貸付口座預金
- (2)この規程に基づく返還金
- (3)寄付金・その他の収入

(貸付額)

第4条 該当学年の学生納付金半期分以内とする。

- 2 貸付金は無利息とする。
- 3 未返済金がある者に対しては、貸し増しは行わない。

(貸付方法)

第5条 学費貸付は、大学授業料口座への振込みによって行う。

(審議)

第6条 貸与生及び貸付額の決定に関しては、学生部長が大学の全学教務学生委員会の審議を経て、後援会会長に推薦する。

(貸与生の決定)

第7条 貸与生の決定は、後援会会長が行なう。

(貸与生の選考基準)

第8条 貸与生の選考基準は、以下に基づいて選考する。

- (1)1年以上継続した本会会員の子弟であること。
- (2)家計急変等のため本学に修学することが、特に困難であること。
- (3)応募者の属する世帯の1年間の総所得金額が独立行政法人日本学生支援機構の収入基準以下であること。
- (4)修学に十分耐うるものと認められること。

(申請手続)

第9条 学費貸付を希望するものは、次に掲げる書類を後援会会長に提出しなければならない。

なお、手続は学生支援課を窓口とする。

- (1)後援会貸付金借用願
- (2)貸付金返済計画書
- (3)学費貸付希望者の所属する学科長の推薦書
- (4)学費貸付希望者の属する世帯の1年間の総所得金額を証明する書類。

(借用手続・借用証書)

第10条 学費貸付決定者は、次に掲げる書類を後援会会長に提出しなければならない。

- (1)借用証書(借用願と同じ保証人および連帯保証人の連署を要する)
- (2)貸付金返済計画書に基づく同意書
- (3)銀行口座振替依頼書(自動送金サービス用)(学籍を離れる時に提出するものとする)

(返還及期間)

第11条 貸付金は、学籍を離れてから3年以内で返還しなければならない。ただし、借用願出の際に虚偽の記載があった時は、直ちに返済するものとする。

- 2 返還方法は、一括返済または元金均等割とする。
- 3 貸付金の返還は、いつでも繰り上げて返還することができる。
- 4 返還は、学生支援課を窓口とする。

(返還猶予)

第12条 貸与生が傷病・その他やむを得ない事由によって返還猶予を願い出たときは、相当と認める期間猶予することができる。

(権限委任)

第13条 この規程に基づく学費貸付金の貸付手続き及び返済收受等の一切の権限を学長に委任するものとする。なお、この規程で疑義が生じたときは、会長と学長が協議のうえ決定する。

(改廃)

第14条 この規程の改廃は、後援会の総会の議を経て会長が行なう。

附則

- 1 この規程は昭和61年7月1日から適用する。
- 2 この規程は昭和63年4月1日から適用する。
- 3 この改正規程は平成16年4月1日から適用する。
- 4 この改正規程は2005年(平成17年)4月1日から適用する。

「せせらぎ合唱団」団員募集

私達のコーラスは、名古屋芸術大学在学中及び卒業生の父兄が、毎月第3土曜日の午後1時30分から3時まで東キャンパスの4号館の3階にあるオペラ教室で、江端智哉先生と山田正文先生の指導で練習をしています。これまで源田俊一郎編曲の「ふるさとの四季」や江端先生の編曲でカッチーノの「アベマリア」、「千の風になって」、「you raise me up」を歌い、今は、「リング追分」と「メモリー」を練習しています。初心者の方も発声から始め、パート練習を通して響きを大切に歌声を目指してきました。興味のある方は、ぜひとも練習会場に足を運んで来て下さい。新しい歌人を待っています。

〈問い合わせ先〉

会長 長江政則
〒480-1214 瀬戸市上品野町927
電話：0561-41-1655
副会長 千石智子
〒488-0863 尾張旭市城前町上大道4084-6
電話：0561-53-4222

絵画グループ 壁の華 会員募集

この「壁の華」は、名芸大後援会の有志により「絵を描いて楽しもう」と、20数年程前から活動を続けている絵画グループであります。毎回、大学の先生方により懇切丁寧なご指導を頂き、年一回、名古屋市内で展覧会を行い、会員の作品を発表しております。後援会に關係のある方ならどなたでも入会して頂けます。入会すれば絵画を通じて、先生方や会員同士の交流が深まり、生活が楽しく、潤いが生まれて参ります。会員一同ご入会をお勧め致します。

【活動状況】

1. 例会 毎月第3日曜日午後2時～4時 西キャンパス
2. グループ展 毎年5月上旬(一週間) 名古屋市民ギャラリー
3. スケッチ会 10月予定
4. 懇親会

〈問い合わせ先〉

会長 宇佐見 誠也
〒489-0874 瀬戸市幡野町200
電話：0561-21-4567 携帯：090-7305-8205
運営委員長 森部 みや子
〒492-8075 稲沢市下津町西下町58
電話：0587-32-2814

